

授 業 概 要

科目名	心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	小林 誠		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
「こころ」の基本的な仕組みについて理解し、人の心理面をさまざまな視点から考えることができるようになる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
講師は、作業療法士として16年目となり、そのうち精神科病院での勤務は11年。私たち(対人援助職)が知っておくべき心理学の基礎知識を分かりやすく、楽しく伝える。また、講師は国家試験対策にも精通しており、国家試験に合格できる知識を獲得することを目指す。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
心理学【カレッジ版】 医学書院 著者代表:山村豊 2017年 第1版					授業内容の復習。 -誰かに伝えるつもりで復習をしてみましょう。 -教科書を(参考書的に)読み直してみましょう。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 定期テストの概要&動物心理学			
	【到達目標】 この科目の進め方や、心理学の全体像をつかむ。 (これから始まる授業の内容をスムーズに理解するための日)					【到達目標】 定期テストの概要について理解する。新たな知識の発見。 動物の心理について、いくつか説明できる。キーワード:定期テスト、動物 など			
2	【授業単元】 「こころ」の歴史を知ろう。(前編)				10	【授業単元】 人の学びとやる気について ~学習~			
	【到達目標】 新たな知識の発見。心理学の学問の成り立ちを、簡潔に説明できる。 キーワード: 科学、無意識 など					【到達目標】 新たな知識の発見。「学習」について、簡潔に説明できる。 キーワード: 学習、動機づけ など			
3	【授業単元】 「こころ」の歴史を知ろう。(後編)				11	【授業単元】 「私らしさ」について考えてみよう ~性格(前編)~			
	【到達目標】 新たな知識の発見。心理学の学問の成り立ちを、簡潔に説明できる。 キーワード: 行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、人間性心理学 など					【到達目標】 新たな知識の発見。「性格」について、簡潔に説明できる。 キーワード: 類型論、特性論 など			
4	【授業単元】 いろんな刺激をナイスキャッチ ~感覚(前編)~				12	【授業単元】 「私らしさ」について考えてみよう ~性格(後編)~			
	【到達目標】 新たな知識の発見。「感覚」について、簡潔に説明できる。 キーワード: 感覚、五感 など					【到達目標】 新たな知識の発見。「性格」について、簡潔に説明できる。 キーワード: 生得説、経験説 など			
5	【授業単元】 いろんな刺激をナイスキャッチ ~感覚(後編)~				13	【授業単元】 人が生まれてから年老いていくまで ~発達(前編)~			
	【到達目標】 新たな知識の発見。「感覚」について、簡潔に説明できる。 キーワード: 錯覚、感情 など					【到達目標】 新たな知識の発見。「発達」に伴うこころの変化について、簡潔に説明できる。 キーワード: 発達のとらえ方、赤ちゃん、他人の気持ち など			
6	【授業単元】 人って世界をどうとらえているの? ~知覚~				14	【授業単元】 人が生まれてから年老いていくまで ~発達(後編)~			
	【到達目標】 新たな知識の発見。「知覚」について、簡潔に説明できる。 キーワード: 知覚、アフオーダンス など					【到達目標】 新たな知識の発見。「発達」に伴うこころの変化について、簡潔に説明できる。 キーワード: 友達づきあい、アイデンティティ、中年期・老年期 など			
7	【授業単元】 情報の倉庫たち ~記憶~				15	【授業単元】 定期テスト			
	【到達目標】 新たな知識の発見。「記憶」について、簡潔に説明できる。 キーワード: 長期記憶、短期記憶 など					【到達目標】 計15回の総合計得点:60点以上			
8	【授業単元】 考えるってどういうこと? ~思考、知能~				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、A~Fの6段階で評価する。				
	【到達目標】 新たな知識の発見。「思考」や「知能」について、簡潔に説明できる。 キーワード: 問題解決、推理、知能 など				100点の内訳は、 ①定期テストが60点満点。 ②小テスト(各回の合計)が40点満点。 ②の内訳は、 第1回授業 … 1点 第2~14回 … 3点 × 13回 = 39点 (以上 合計で40点)				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
本科目は「ひと」を理解するためにあります。ただし、この科目を受ければ分かる、というよりも、実際にあなたが誰かと関わった際、その誰かを理解するための「ヒント集」というイメージです。ぜひ多くのヒントを手に入れて下さい。					※本科目では、中テストは行わない。 ※定期テスト、小テストは資料持ち込み可。				

授 業 概 要

科目名	基礎学習法A	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	藤 雅 茂		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
本授業の目的は「スタディスキル」の獲得である。具体的にはノートの取り方、テキストの読解、文献や資料の検索、要約の方法、考えのまとめ方、レポートの書き方等である。そのために必要な最低限の数理科学の基礎知識の習得と、基本的なデータ処理方法(統計検定3級程度)、レポートの書き方(アカデミック・ライティング)を学び、作業療法士に必要とされる適切なデータと知見の表現方法の獲得を目指す。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
公務員試験対策を長年教鞭をとってきた教員が、講義、グループワーク等を通じて、作業療法士の国家試験に対応できるスタディスキルと実習等で必要となるレポートの書き方に関する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
【参考図書】独学大全、読書猿、ダイヤモンド社(2020) 【参考図書】数字のセンスを磨く、筒井淳也、光文社(2023)					自宅でのファイリング、テキストの要約、文献や資料の検索、数理科学の問題の解答において、毎回授業時間外の作業が求められる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 (1)ガイダンス 本授業の位置づけ (2)スタディスキルとは何か				9	【授業単元】 力学—位置・速度・加速度			
	【到達目標】 「動機付け」、「探す」、「読む」、「考える」、「書く」、「身につける」という段階を踏んで、「スタディスキル」は習得される。今までのスタディスキルを各自で振り返り、専門学校での学びにおいて、どのようなスタディスキルを身につけなければいけないのか説明できるようにする。					【到達目標】 等加速度直線運動において、速度、加速度、距離を求めることができる。			
2	【授業単元】 単位と計算(国際基本単位)				10	【授業単元】 力学—力と運動			
	【到達目標】 国際基本単位、国際組立単位を適切に扱うことができる。 長さ・面積・体積の計算ができる。					【到達目標】 運動の3法則を説明できる。 運動方程式を用い運動の問題を解答できる			
3	【授業単元】 計算の基礎知識—四則演算、計算順の鉄則				11	【授業単元】 力学—この原理			
	【到達目標】 コメディカルで必要とされる基礎的な計算を行うことができる。 カウブ指数、ローレル指数、BMI等の計算をすることができる。					【到達目標】 てこの原理を理解し、ボディメカニクスに関する問題を解答できる。			
4	【授業単元】 計算の基礎知識—指数・対数				12	【授業単元】 力学—仕事量とエネルギー			
	【到達目標】 指数、対数計算をすることができる。 pHの計算をすることができる。					【到達目標】 仕事量とエネルギーの関係を説明できる。 運動エネルギーを仕事量から導くことができる。 熱エネルギーをカロリーで表すことができる。			
5	【授業単元】 計算の基礎知識—割合の表し方				13	【授業単元】 波動			
	【到達目標】 「比べる量」「比べられる量」「もとにする量」の意味を理解し、割合に関する問題を解答できる。 溶液の濃度計算ができる。					【到達目標】 波動を表すことができる。 波の進行の速さを計算できる。 音の3要素を説明できる。			
6	【授業単元】 計算の基礎知識—比(比例式、比例の配分)				14	【授業単元】 熱			
	【到達目標】 3大エネルギーの摂取量の配分といった比例式を用いた計算ができる。					【到達目標】 物質の三態について説明できる。 熱と温度の関係を説明できる。			
7	【授業単元】 計算の基礎知識—速さ				15	【授業単元】 期末試験 前期第9回～14回の振り返り			
	【到達目標】 時間、距離、速さの三要素の関係を理解し、看護師国家試験に出題される輸液の所要時間を はじめとした速さに関する問題を解答できる。					【到達目標】 速度からエネルギーまでの基本的な計算と波動に関する計算ができる。			
8	【授業単元】 中間試験 前期第2回～7回までの振り返り				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 医療分野で必要とされる基礎的な計算を行うことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
学習過程のすべてに学習者自身が能動的にかかわることが重要である。本授業で得られる知見・知識を他科目にどう応用させていくかが問われる。									

授 業 概 要

科目名	基礎学習法B	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	藤 雅茂		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<p>本授業の目的は「スタディスキル」の獲得である。具体的にはノートの取り方、テキストの読解、文献や資料の検索、要約の方法、考えのまとめ方、レポートの書き方等である。そのために必要な最低限の数理科学の基礎知識の習得と、基本的なデータ処理方法（統計検定3級程度）、レポートの書き方（アカデミックライティング）を学び、作業療法士に必要とされる適切なデータと知見の表現方法の獲得を目指す。</p>									
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
公務員試験対策を長年教鞭をとってきた教員が、講義、グループワーク等を通じて、作業療法士の国家試験に対応できるスタディスキルと実習等で必要となるレポートの書き方に関する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
【参考図書】独学大全、読書猿、ダイヤモンド社（2020） 【参考図書】数字のセンスを磨く、筒井淳也、光文社（2023）					自宅でのファイリング、テキストの要約、文献や資料の検索、数理科学の問題の解答において、毎回授業時間外の作業が求められる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション（授業の内容と進め方、学習方法） ・統計学の基礎 データの収集と変数の分類 【到達目標】 標本調査の意味と必要性を理解し、標本の抽出方法を説明することができる。 スティープズの分類を適用して、データを分類することができる。				9	【授業単元】 統計学の基礎—二変量の関係 【到達目標】 質的変量同士の関係を説明できる。 量的変量同士の関係を説明できる。 相関係数を求めることができる。			
	2	【授業単元】 統計学の基礎—データの視覚化 【到達目標】 データに応じたグラフ表現ができる。 院内報告書などの資料作成に必要なグラフを作成できる。				10	【授業単元】 統計学の基礎—記述統計学と推測統計学 【到達目標】 確率変数と確率分布を説明できる。		
3		【授業単元】 統計学の基礎—データの要約(1) 【到達目標】 データの性質を理解し、スティープズの4尺度を用いて分類できる。 度数分布表及び度数分布図を作成できる。					11	【授業単元】 統計学の基礎—推定 【到達目標】 点推定の値を求められる。 区間推定の値を求められることができる。	
	4	【授業単元】 統計学の基礎—データの要約(2) 【到達目標】 基本統計量(代表値)を求めることができる。 代表値の値を用いて、集団の特徴を把握できる。				12		【授業単元】 言語表現を整える—序論・本論・結論／中心文・支持文 【到達目標】 アカデミックライティングの全体構成を理解し、 中心文と支持文を用いて文章を作成することができる。	
5		【授業単元】 統計学の基礎—データの要約(3) 【到達目標】 基本統計量(散布度)を求めることができる。 散布度の値を用いて、集団の特徴を把握できる。					13	【授業単元】 言語表現を整える—引用方法・参考文献 【到達目標】 直接引用と間接引用の形式を理解し、引用文を用いた文章を作成することができる。 参考文献リストを作成できる。	
	6	【授業単元】 統計学の基礎—ばらつき表現 【到達目標】 範囲、四分位偏差を求めることができる。 変動係数を求めることができる。				14		【授業単元】 言語表現を整える—数値表現、図表・データの表現 【到達目標】 アカデミックスタイルにおける数値表現を用いて文章を作成することができる。 図表やグラフを用いた文章を作成することができる。	
7		【授業単元】 統計学の基礎—統計量の概算 【到達目標】 度数分布表から統計量を概算できる。					15	【授業単元】 期末試験 前期第9回～14回の振り返り 【到達目標】 6～8段落で構成された1600字程度のレポートをアカデミックライティングの形式で作成できる。	
	8	【授業単元】 中間試験 前期第2回～7回までの振り返り 【到達目標】 基礎統計量を算出して、データを適切な方法でまとめることができる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト（8回目授業で実施）は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】 学習過程のすべてに学習者自身が能動的にかかわることが重要である。 本授業で得られる知見・知識を他科目にどう応用させていくかが問われ									

授 業 概 要

科目名	情報処理入門	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	株式会社 プレーンスタッフコンサルタンツ		
学科 コース	作業療法士科屋間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく活用できる ・Wordを利用し、複合文書を作成できる ・図解や画像を駆使した、訴求力のあるプレゼン資料を作成して発表できる 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
滋慶学園グループの企業である(株)プレーンスタッフコンサルタンツのラーニングマネージャーが、卒業研究や就職後に必須となるパソコンスキルについての講義を実施。学生に必要なスキルに特化した、オリジナルのe-learning(インターネット上のテキスト)を使用									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
オリジナルのe-learningテキスト					e-learningテキストで操作手順を確認し、PC操作を実践する				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 CCT入門1 web検索、マウスの操作、PCトラブル時の解決方法				9	【授業単元】 PowerPointダイジェスト 発表シナリオ作成			
	【到達目標】 検索力を身につけ問題を解決できる					【到達目標】 スライド作成の基本的な操作ができる 発表用のシナリオを作成できる			
2	【授業単元】 CCT入門2 ITリテラシー 滋慶学園 ITリテラシー理解度テスト				10	【授業単元】 プレゼン基礎1 発表スライド作成			
	【到達目標】 新しいテクノロジーや情報を扱うための基礎的な知識や注意点を理解し、正しく上手に活用できる					【到達目標】 何を伝えるかを簡潔に示したスライド作成の設計ができる			
3	【授業単元】 CCT入門4 Officeの基本操作				11	【授業単元】 プレゼン基礎2 発表スライド作成			
	【到達目標】 Excelの基本的な操作ができる					【到達目標】 レイアウト、配色等、デザインに考慮した図解を作成できる			
4	【授業単元】 Word基礎1 基本操作				12	【授業単元】 プレゼン基礎3 発表スライド作成			
	【到達目標】 文書作成ソフトを使って、効率的にビジネス文書を作ることができる					【到達目標】 表の活用・図表の効果的な表現をすることができる			
5	【授業単元】 Word基礎2 画像や図形				13	【授業単元】 PowerPoint4 発表			
	【到達目標】 画像や図形を駆使した文書を作成できる					【到達目標】 作成したプレゼン資料を発表できる			
6	【授業単元】 Word基礎3 表の作成				14	【授業単元】 PowerPoint試験対策			
	【到達目標】 表を駆使した文書を作成できる					【到達目標】 PowerPoint講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる			
7	【授業単元】 Word試験対策				15	【授業単元】 PowerPoint定期試験、振り返り			
	【到達目標】 Word講座で学習した操作を繰り返し練習して、設問指示に従った操作を実践できる					【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、PowerPoint資料を作成できる			
8	【授業単元】 Word中テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 設問指示に従った操作を実践して、Word資料を作成できる				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験はPCを使用したPowerPointスライド作成を行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
PC操作は日々繰り返すことでタイピング速度が上がり、効率的な資料作成やデータ処理が可能になります。できるだけ日常に取り入れて活用してください									

授業概要

科目名	人間関係論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	大和田 みな未		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
良好な人間関係を築き、協働することができるコミュニケーション能力を身につける。カウンセリング理論を中心とした人間関係論や相互交流的リーズニングについて理解する。省察により自己理解を深めることによって、対話スキル、自己表現スキル、社会的スキルなどを身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学院にて研究・学会発表経験を持ち、精神障害領域、身体障害領域で約8年間臨床経験を積んだ教員が、作業療法実践に必要な知識・技能についてイメージを持ち、作業療法に対するモチベーションを高められるような授業を行っています。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
必要時に授業資料・スライドをteamsにアップします。					コミュニケーションについて関心を持ち、学習したことを日頃から実践していきましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 導入教育				9 4/10	【授業単元】 基本的対話スキルについて理解し実践できるようになる			
	【到達目標】 これから共に学ぶクラスメイトのことを知り、全員にとってクラスが安心安全な空間になる土台を作る ・インテークスキルトレーニングの振り返り					【到達目標】 話す(送信)、聴く(受信)について理解し実践できるようになる ノンバーバルコミュニケーション、意見交換について理解し実践できるようになる			
2	【授業単元】 導入教育				10	【授業単元】 自己表現スキルについて理解し実践できるようになる①			
	【到達目標】 自分の学びを知る 学びの場を作る 学び方を工夫する ・アドラーのライフスタイル ・VAKT学習スタイル					【到達目標】 挨拶・自己紹介・頼み方・断り方について理解し、実践できるようになる アサーティブコミュニケーションについて理解し、実践できるようになる			
3	【授業単元】 導入教育				11	【授業単元】 自己表現スキルについて理解し実践できるようになる②			
	【到達目標】 作業療法士の仕事を知り、自分の3年後、1年後のイメージを持てるようになる。(養成目的・教育目標、学年目標と教育スケジュール)					【到達目標】 アンガーマネジメントを理解し、実践できるようになる			
4	【授業単元】 導入教育				12	【授業単元】 自己表現スキルについて理解し実践できるようになる③			
	【到達目標】 1年次に学ぶ科目のつながりと学校のルールを理解し、今年の学習目標を言語化できるようにする。(学則・学則施行細則、学生便覧説明)					【到達目標】 プレゼンテーションスキルについて理解し、実践できるようになる			
5	【授業単元】 導入教育				13	【授業単元】 社会的スキルについて理解し実践できるようになる			
	【到達目標】 3つの習慣を理解し、「こんな作業療法士になりたい！」を言語化できる					【到達目標】 挨拶、敬語、電話対応、接客、訪問、謝罪について学び、実践できるようになる			
6	【授業単元】 導入教育				14	【授業単元】 社会的スキルについて理解し実践できるようになる			
	【到達目標】 クラスメイトの「こんな作業療法士になりたい」を知り、言葉の花束を送る					【到達目標】 文書作成について学び、実践できるようになる			
7	【授業単元】 導入教育				15 5/29	【授業単元】 これまでの復習と定期テスト 解説			
	【到達目標】 立てた学習目標に対して、先輩たちからアドバイスをもらうことで、できるイメージを膨らませることができる。(佐藤さん、清水くん、松永さん、安田さん、榎本くん、川村さん、土屋さん)					【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。			
8	【授業単元】 導入教育				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。(1回目～8回目の導入教育で10点+9回目～14回目の小テストで30点、計40点と定期テスト60点の配点) 定期試験は筆記で行う。				
	【到達目標】 校舎を見学しながら、学ぶ環境を知り、自分が在学中に活用できる資源を広げられるようになる。 (慶生会・相談室・教室・図書室・キャリアセンター等の利用・学生受付事務・窓口案内)								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
将来作業療法士となるという自覚を持ち、作業療法への理解を深め、自身の目標とする作業療法士像をかたちづくっていきましょう。									

授 業 概 要

科目名	人の生活と作業	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	濱畑 法生		
学科 コース	作業療法士科屋間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
人は24時間365日、何らかの活動をしている。仕事や遊びはもちろん、睡眠も作業の一つである。ここでは、自分自身の生活がどのように成り立っているかを調べ、作業という概念をしっかりと理解し、人の生活を構成する要素について概観し、ICF(国際生活機能分類)が提示している内容を、実際の生活レベルで理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
作業療法士免許を取得して35年経験があり、その間臨床現場で15年、大学教員として16年、専門学校で2年の教育研究歴を持つ。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
「作業」って何だろうー作業科学入門第2版					30分程度の復習を要する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション、自己開示(紹介)				9	【授業単元】 国際生活機能分類(ICF)について			
	【到達目標】 作業療法が手段とするものは、人の営みで行われるすべての活動である。ここでは、その中でも一番重要なコミュニケーション手段を習得するために、まず自己開示の方法を学ぶ。					【到達目標】 WHO(世界保健機関)が定めた国際生活機能分類について解説する。			
2	【授業単元】 コミュニケーション演習				10	【授業単元】 ディベート②(ゲーム)			
	【到達目標】 人が用いるコミュニケーションの手段は言葉だけではない。ここでは、他の手段を用いたコミュニケーション方法を、ゲームを使って演習する。					【到達目標】 コミュニケーションを行うと、時に意見の違う場合があり、両者がすれ違いを生みいい結果にならないことが多い。ここでは、ゲームを用いてグループ討論を実施し、意見が合わない場合の問題解決方法を演習する。			
3	【授業単元】 自分の生活を振り返る一生活時間構造				11	【授業単元】 作業科学について①			
	【到達目標】 病気や障害を持つと普通の生活がうまく送れなくなる。ここでは、普通の生活とは何か考えるとともに、自分の生活を振り返り、人が日々どのように生活しているかを考察する。					【到達目標】 作業科学の諸概念について、テキストを元に解説する。			
4	【授業単元】 高齢者の生活時間構造から考える①				12	【授業単元】 作業科学について①			
	【到達目標】 人の生活について、データをもとに考えていく。					【到達目標】 作業科学の作業療法について、テキストを元に解説する。			
5	【授業単元】 高齢者の生活時間構造から考える②				13	【授業単元】 ディベート③(エレベーター)			
	【到達目標】 人の生活について、データをもとに考えていく。また、それを改善するために行われている実践例を考察する。					【到達目標】 コミュニケーションを行うと、時に意見の違う場合があり、両者がすれ違いを生みいい結果にならないことが多い。ここでは、意見が対立するテーマでグループ討論を実施し、意見が合わない場合の問題解決方法を演習する。			
6	【授業単元】 ディベート①(国連勧告)				14	【授業単元】 インテーク演習			
	【到達目標】 コミュニケーションを行うと、時に意見の違う場合があり、両者がすれ違いを生みいい結果にならないことが多い。ここでは、意見が対立するテーマでグループ討論を実施し、意見が合わない場合の問題解決方法を演習する。					【到達目標】 自分がインテークを行う場合の方法について、項目を整理し、実際に1対1のインテーク場面で演習する。			
7	【授業単元】 作業科学について①				15	【授業単元】 まとめ、試験			
	【到達目標】 作業の意味について、テキストを元に解説する。					【到達目標】 科目全体を振り返り、終了後試験を行う。			
8	【授業単元】 作業科学について①、確認テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 作業の持つ意味について振り返り、確認テストを行う。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テスト及び確認テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は発表内容、実技試験、筆記試験またはTeamsを利用して行う。 ・毎回の小テスト及び確認テストは各回5点満点とし、その合計点数(小数点以下切り上げ)を40点に換算し小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
演習が多いので、積極的に参加すること。									

授 業 概 要

科目名	国際教育学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	濱畑法生		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・異文化理解を深めることができる。 ・世界で行われている作業療法実践の理解を深めることができる。 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
<ul style="list-style-type: none"> ・身体障害領域・老年期障害領域において作業療法を実践してきた教員複数名による講義を実施。 ・現在世界で活躍している、あるいは経験のある作業療法士から作業療法の実践のイメージをする。 									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法概論 第4版 医学書院 ・作業療法学ゴールドマスター・テキスト 作業学 第3版 メディカルビュー ・国際リハビリテーション学 第1版 羊土社 					各回終了後30分程度の復習を要する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】※オリエンテーション含む ・作業とは・その人らしい生活を支援する作業療法について 課題：自分にとって大切な作業とは？ ・文化とは・文化を理解し、対処する能力について 【到達目標】 ・作業とは何かを理解し、その人にとって大切な作業を実現することを支援する作業療法を知ることができる。 ・文化を理解し対処する能力の重要性を理解することができる ・文化に配慮したリハビリテーションを実施する際の留意点を理解することができる				9	【授業単元】 ・おもてなし企画を実施する ・適時、課題を提出する			
2	【授業単元】 ・留学生とのオンライン交流 ・留学生が感じる楽しみや喜びの聴取 課題：留学生が楽しんだり喜んだりできる作業を企画する 【到達目標】 ・日本語学校の留学生とコミュニケーションを図ることができる ・留学生と楽しむ作業を企画することができる				5 1 2	【到達目標】 ・留学生が育った文化に配慮しながら、留学生が楽しいと感じる作業をともに楽しむことができる ・タイムスケジュール表に沿って企画運営することができる ・決められた時間に課題を提出(状況報告)することができる			
3 5 6	【授業単元】 ・留学生おもてなし企画の共有 ・グループで企画をまとめ、当日のタイムスケジュールを作成 ・留学生に配布するタイムスケジュール表を作成する 【到達目標】 ・異文化を理解し、留学生が楽しめる作業を企画することができる ・留学生が当日のタイムスケジュールを把握できるしおりを作成することができる				1 3 5	【授業単元】 ・アルバム作成 ・プレゼント ・留学生と当日の振り返り 【到達目標】 ・企画を通じて学んだことについて振り返ることができる ・国際教育学全体を通して学びに気づくことができる			
7 5 8	【授業単元】 ・おもてなし企画を留学生にプレゼンする ※修正箇所があれば午後修正する 【到達目標】 ・自分たちが企画した内容を留学生に伝えることができる				1 3 5	【成績評価の方法と基準】 国際教育学の成績判定は6段階評価の対象外科目であり、評価はS(合格)、またはU(不合格)。よって出席状況、課題提出状況で可否を判定する。 出席に関してはほかの科目と同様、既定の授業時間数の10分の7に満たないものについては単位の認定をしない。 1・2コマは期間前となるため、事前の授業(録画)となる。よって、1・2コマに関しては課題の提出もって出席とみなす。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
基本的には昼間部・夜間部共同のグループワーク活動となります。 内容が変更となる可能性もあるため、適時アナウンスします。									

授 業 概 要

科目名	基礎医学特論 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	田中 直幸		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】 解剖学、生理学の知識をつなげ、人間の身体の構造と機能について説明できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 回復期リハビリテーション病院、訪問リハビリテーションにて勤務し、身体障害領域の小児から高齢者まで幅広く臨床経験があります。この授業では、主に生理学の授業で学んだ内容を振り返り、発表を通して理解を深めます。									
【使用教科書・教材・参考図書】 解剖学、生理学の使用教科書(授業内で適宜案内する)					【授業時間外における学習】 解剖学、生理学の復習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 解剖学・生理学の復習1				9	【授業単元】 解剖学・生理学の復習8			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(細胞の構造や膜電位など)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(呼吸器系)を自分の言葉で説明できる			
2	【授業単元】 解剖学・生理学の復習2				10	【授業単元】 解剖学・生理学の復習9			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(神経系)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(泌尿器系)を自分の言葉で説明できる			
3	【授業単元】 解剖学・生理学の復習3				11	【授業単元】 解剖学・生理学の復習10			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(筋)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(消化器系)を自分の言葉で説明できる			
4	【授業単元】 解剖学・生理学の復習4				12	【授業単元】 解剖学・生理学の復習11			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(骨)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(内分泌系)を自分の言葉で説明できる			
5	【授業単元】 解剖学・生理学の復習5				13	【授業単元】 解剖学・生理学の復習12			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(感覚)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(代謝と体温)を自分の言葉で説明できる			
6	【授業単元】 解剖学・生理学の復習6				14	【授業単元】 解剖学・生理学の復習13			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(血液)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(筋と骨)を自分の言葉で説明できる			
7	【授業単元】 解剖学・生理学の復習7				15	【授業単元】 総復習 定期テスト			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(心臓と循環)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 総復習と試験にて学習の理解度を確認できる			
8	【授業単元】 前半のまとめ 中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験もしくは口頭試験で評価する。定期テストは筆記試験とする。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】 教科書等を参照しながら、主体的に取り組むこと。									

授 業 概 要

科目名	基礎医学特論 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	田中 直幸		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
解剖学、生理学の知識をつなげ、人間の身体の構造と機能について説明できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
回復期リハビリテーション病院、訪問リハビリテーションにて勤務し、身体障害領域の小児から高齢者まで幅広く臨床経験があります。この授業では、主に解剖学の授業で学んだ内容を振り返り、発表を通して理解を深めます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
解剖学、生理学の使用教科書(授業内で適宜案内する)					解剖学、生理学の復習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 解剖学・生理学の復習1				9	【授業単元】 解剖学・生理学の復習8			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(細胞の構造)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(体幹、背部の筋)を自分の言葉で説明できる			
2	【授業単元】 解剖学・生理学の復習2				10	【授業単元】 解剖学・生理学の復習9			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(組織)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(上肢の筋)を自分の言葉で説明できる			
3	【授業単元】 解剖学・生理学の復習3				11	【授業単元】 解剖学・生理学の復習10			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(骨の分類)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(下肢の筋)を自分の言葉で説明できる			
4	【授業単元】 解剖学・生理学の復習4				12	【授業単元】 解剖学・生理学の復習11			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(脊柱、椎骨)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(中枢神経、末梢神経)を自分の言葉で説明できる			
5	【授業単元】 解剖学・生理学の復習5				13	【授業単元】 解剖学・生理学の復習			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(上肢の骨)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(間脳、脳幹)を自分の言葉で説明できる			
6	【授業単元】 解剖学・生理学の復習6				14	【授業単元】 解剖学・生理学の復習12			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(手、下肢の骨)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(小脳、髄液)を自分の言葉で説明できる			
7	【授業単元】 解剖学・生理学の復習7				15	【授業単元】 総復習 定期テスト			
	【到達目標】 解剖学・生理学で学んだ内容(頭部の骨)を自分の言葉で説明できる					【到達目標】 総復習と試験にて学習の理解度を確認できる			
8	【授業単元】 前半のまとめ 中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験もしくは口頭試験で評価する。定期テストは筆記試験とする。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
教科書等を参照しながら、主体的に取り組むこと。									

授 業 概 要

科目名	人間発達学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	今 えり		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】 基本的な人間の発達を身体・認知・社会に分けて学び、その中で課題を認識し、作業療法士としてどのように関わっていくかを学ぶ。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 作業療法士として、15年以上発達障害領域(特別支援学校や児童デイサービスや療育施設、園の巡回)で働きつつ、教材開発アドバイザーとして企業に助言したり、発達障害について勉強会を担当している教員が、小児の発達を中心に、人間の全体的な発達について授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
人間発達学					復習として授業で学んだ範囲の部分の教科書を読む				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 人間発達学概論				9	【授業単元】 排泄行動の発達 更衣・整容動作の発達			
	【到達目標】 人間発達学とは。また、人間発達学を学ぶ意義を考える 発達の10原則を理解することができる。					【到達目標】 排尿・排便の生理的メカニズムを理解する 排泄行動の発達過程を理解する 乳幼児期の更衣・整容動作の発達特徴を理解する			
2	【授業単元】 身体・姿勢・移動動作の発達				10	【授業単元】 遊びの発達			
	【到達目標】 乳幼児の姿勢・運動移動動作発達の特徴や流れを理解できる					【到達目標】 人間生活における遊びの意義、種類、遊びの性質を知る 乳幼児期における遊びの発達過程を知る			
3	【授業単元】 実習(おもちゃ作り)				11	【授業単元】 仕事をする能力の発達			
	【到達目標】 乳幼児の年齢を設定し、その乳幼児の発達段階を調べ、興味を持ちそうなおもちゃを作る。					【到達目標】 多様化する職業観と職業に求められる能力を知る 仕事をする能力の発達過程とその特徴を知る			
4	【授業単元】 実習(乳幼児と触れ合う)				12	【授業単元】 発達の諸段階と発達課題(胎生期)			
	【到達目標】 自分が作ったおもちゃで実際に乳幼児と遊んでみる 乳幼児と遊びながら、今まで習ってきた発達の流れなどを確認する					【到達目標】 先天異常、染色体異常、遺伝病を理解する			
5	【授業単元】 目と手の協調の発達				13	【授業単元】 発達の諸段階と発達課題(乳児期)			
	【到達目標】 目の働き、手の働きについて知る 乳幼児期の目と手の協調の発達経過の概要を理解する					【到達目標】 乳児期における姿勢・移動能力と操作能力の獲得について理解する 乳児期における感覚・運動的知能の獲得過程を理解する			
6	【授業単元】 認知機能の発達				14	【授業単元】 発達の諸段階と発達課題(幼児期) 総まとめ			
	【到達目標】 認知機能とは何かを理解する 乳幼児期の認知機能の特徴を知る					【到達目標】 幼児期における移動能力の獲得過程と食事・排泄・更衣動作の自立過程を理解する 幼児期における遊びと認知発達の特徴、自覚の芽生えを理解する 今までの授業のまとめとテスト内容			
7	【授業単元】 コミュニケーションの発達				15	【授業単元】 試験			
	【到達目標】 コミュニケーションの発達過程の概要を理解する 情緒・社会性の発達のポイントを知る					【到達目標】 今まで習った範囲の確認を行う			
8	【授業単元】 中テスト 日常生活における諸活動の発達 食事動作の発達				【成績評価の方法と基準】 ・講義全体を100点満点とし、中テスト15点、小テスト60点、提出物5点、合わせて80点を半分の40点とし、定期テストを60点とする。合わせて100点満点。 上記の点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、合計60点とする。 (6回目、8回目、15回目を除く12回分)				
	【到達目標】 日常生活活動・遊び・仕事の概念を理解する 食事動作の4つの相におけるそれぞれの運動・知覚システムを理解する								
【履修に当たっての心構え・留意点】 わからないことや発達領域、就職などの相談はいつでもしてください。									

授 業 概 要

科目名	運動学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	岩本大志		
学科 コース	作業療法士科屋間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
人体の動きに関して基本的な知識を習得し、臨床および国家試験でのポイントを理解出来るようにする。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床面では、急性期・回復期病院に8年間勤務し、その後東京メディカルスポーツ専門学校にて専任講師を6年間担当。現在整形外科クリニックに勤務(臨床経験年17年目)。教育面では、東京メディカルスポーツ専門学校(担当:義肢装具学・評価学概論・地域リハビリテーションなど)に従事。臨床、教育両面の経験を活かし学生とのコミュニケーションを大切にし講義を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
(医学書院)・配布教材					授業内で提示した課題				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・2	【授業単元】 オリエンテーション・バイオメカニクス① 運動学の勉強方法と授業の進め方				17・18	【授業単元】 四肢と体幹の運動 神経・筋の構造 上肢帯 小テスト			
	【到達目標】 この授業での目標・評価・授業の進め方の共有 バイオメカ①:力と重心					【到達目標】 筋・神経の名前・特徴などを理解し簡単に図にできるようにする			
3・4	【授業単元】 バイオメカニクス①・② 小テスト				19・20	【授業単元】 四肢と体幹の運動 神経・筋の構造 下肢帯 小テスト			
	【到達目標】 バイオメカ①:力と重心 バイオメカ②:床反力と身体運動 上記内容を理解する					【到達目標】 筋・神経の名前・特徴などを理解し簡単に図にできるようにする			
5・6	【授業単元】 バイオメカニクス③・④ 小テスト				21・22	【授業単元】 四肢と体幹の運動 神経・筋の構造 体幹・顔面 小テスト			
	【到達目標】 バイオメカ③:並進運動と運動の法則 バイオメカ④:回転運動とモーメント 上記内容を理解する					【到達目標】 筋・神経の名前・特徴などを理解し簡単に図にできるようにする			
7・8	【授業単元】 バイオメカニクス⑤・⑥ 小テスト				23・24	【授業単元】 生体の構造と機能 ②感覚器の構造と機能 ④呼吸 小テスト			
	【到達目標】 バイオメカ⑤:エネルギーとパワー バイオメカ⑥:運動量と力積 上記内容を理解する					【到達目標】 生体の構造と機能 ②感覚器の構造と機能 ④呼吸 上記の基本的な知識を習得する			
9・10	【授業単元】 四肢と体幹の運動 骨の構造 上肢帯 小テスト				25・26	【授業単元】 生体の構造と機能 ⑤血液と循環 ⑥体温調整 ⑦腎 小テスト			
	【到達目標】 骨の名前・特徴などを理解し簡単に図にできるようにする					【到達目標】 生体の構造と機能 ⑤血液と循環 ⑥体温調整 ⑦腎 上記の基本的な知識を習得する			
11・12	【授業単元】 四肢と体幹の運動 骨の構造 下肢帯 小テスト				27・28	【授業単元】 生体の構造と機能 ⑧栄養とエネルギー 小テスト			
	【到達目標】 骨の名前・特徴などを理解し簡単に図にできるようにする					【到達目標】 生体の構造と機能 ⑧栄養とエネルギー 上記の基本的な知識を習得する			
13・14	【授業単元】 四肢と体幹の運動 骨の構造 体幹 小テスト				29・30 11/22	【授業単元】 29:これまでの復習時間 30:定期試験・振り返り 後半			
	【到達目標】 骨の名前・特徴などを理解し簡単に図にできるようにする					【到達目標】 骨の名前・特徴などを理解し簡単に図にし、その上で筋肉・神経の走行を図式できるようにする。 生体の構造の基本的な問題を出題する。			
15・16	【授業単元】 15:これまでの復習時間 16:定期試験・振り返り 前半				【成績評価の方法と基準】 評価方法:筆記試験 時期:小テスト、定期テスト(16回目・30回目) 配点方法:定期試験60点、小テスト等40点の配点で総合し、AからFの6段階で評価する。試験は筆記試験で行う。				
	【到達目標】 バイオメカニクスの基本事項・運動学用語の知識 骨の名前・特徴などを理解し簡単に図にする								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
教科書など指示された持参物を忘れず持参すること。 説明に対し、うなずく、メモを取る意識を持つこと。 積極的に授業に参加すること。									

授 業 概 要

科目名	運動学演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	岩本大志		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
<p>人体の身体運動について学び、分析することができる。正常な運動について説明ができる。動作分析の視点をみにつける事ができる。</p>									
<p>【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)</p> <p>臨床面では、急性期・回復期病院に8年間勤務し、その後東京メディカルスポーツ専門学校にて専任講師を6年間担当。現在整形外科クリニックに勤務(臨床経験年17年目)。教育面では、東京メディカルスポーツ専門学校(担当:義肢装具学・評価学概論・地域リハビリテーションなど)に従事。臨床、教育学両面の経験を活かし学生とのコミュニケーションを大切にし講義を展開していく。</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
基礎運動学(医歯薬出版株式会社)・ 動作分析臨床活用講座(MEDICAL VIEW)・配布教材					授業内で提示した課題				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 生体の構造 ①運動の中樞神経機構 【到達目標】 反射について理解する				9	【授業単元】 起き上がり動作② 【到達目標】 起き上がり動作の評価			
2	【授業単元】 運動発達 【到達目標】 運動発達と反射の統合				10	【授業単元】 起立・着座動作① レポート 【到達目標】 起居・着座動作動作の概要を理解する			
3	【授業単元】 姿勢 【到達目標】 姿勢分析の基本について理解する				11	【授業単元】 起立・着座動作② 【到達目標】 起居・着座動作動作の評価			
4	【授業単元】 姿勢の分析 レポート 【到達目標】 姿勢分析の記録することができるようになる				12	【授業単元】 歩行 【到達目標】 歩行の概要を理解する			
5	【授業単元】 運動と動作の分析 【到達目標】 姿勢分析の記録することができるようになる				13	【授業単元】 歩行分析 レポート 【到達目標】 歩行の評価			
6	【授業単元】 寝返り動作① レポート 寝返り動作の概要を理解する				14	【授業単元】 運動学習 【到達目標】 運動学習の概要を理解する			
7	【授業単元】 寝返り動作② 【到達目標】 寝返りの評価				15	【授業単元】 定期試験 【到達目標】			
8	【授業単元】 起き上がり動作① レポート 【到達目標】 起き上がり動作の概要を理解する				【成績評価の方法と基準】 評価方法:レポート・定期テスト(15回目実施) 配点方法:定期試験60点、レポート40点の配点で総合し、AからFの6段階で評価する。試験は筆記試験で行う。				
【履修に当たっての心構え・留意点】 教科書など指示された持参物を忘れず持参すること。説明に対し、うなずく、メモを取る意識を持つこと。									

授業概要

科目名	解剖学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	高野吉郎		
学科 コース	作業療法士科履間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】 生物としての人体の構造をミクロ、マクロの両視点から広く学び、作業療法士が身につけるべき人体の解剖学的見方を修得する									
【学習内容】 医歯系総合大学で長く解剖学と組織学の教育に携わってきた教員が、作業療法士を志す諸君が修得すべき人体の正常構造について、運動器(骨・筋)、神経系、内臓諸器官系にわけて わかりやすく解説する。									
【使用教科書・教材・参考図書】 標準理学療法学・作業療法学【解剖学(第5版)】医学書院					【授業時間外における学習】 各回とも事前に配布する講義資料と教科書に目を通し、受講前に最低でも30分程度は講義範囲を予習することが望まれます				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 解剖学入門 人体の構成要素Ⅰ				17	【授業単元】 【筋学各論】 体幹背部の筋 上肢帯の筋			
2	【到達目標】 ・生物としての人体の解剖学的見方を学ぶ ・細胞・組織・器官・器官系による人体の構成を包括的に見ることができるようになる ・人体の最小構成単位である細胞の基本構造を知る ・細胞周期と細胞分裂、細胞死のメカニズムを説明できる				18	【到達目標】 ・体幹背部の浅層と深層の筋(浅背筋、深背筋)の起始、停止、作用を説明できるようになる ・固有背筋を説明できる ・肩甲骨と肩関節の運動に関わる筋の配置と起始、停止、作用を筋ジェイできる			
3	【授業単元】 人体の構成要素Ⅱ 人体の発生				19	【授業単元】 上肢の筋 胸壁、腹壁、骨盤の筋			
4	【到達目標】 ・人体を構成する四大組織(上皮組織・支持組織・筋組織・神経組織)の特徴と役割を説明できるようになる ・受精～着床～胚盤形成～胚子発生の概略と、主な組織の胚葉(胚盤)由来を理解する				20	【到達目標】 ・前腕、手、手指を動かす筋を説明できる ・手の内在筋の付着と作用を説明できる ・胸壁、腹壁、骨盤の筋の配置と作用を説明できる			
5	【授業単元】 【骨学総論】骨と骨格				21	【授業単元】 下肢の筋 頭頸部の筋			
6	【到達目標】 ・骨の基本構造と発生・成長様式を説明できるようになる ・形状に基づいた骨の分類を説明できる ・人体の骨格を構成する骨の連結様式を説明できる				22	【到達目標】 ・大腿と下腿の筋、足の内在筋の付着と作用を説明できる ・浅頭筋、深頭筋の付着と作用を説明できる ・前頸筋、側頭筋の付着と作用を説明できる			
7	【授業単元】 【骨学各論】 脊柱と椎骨				23	【授業単元】 【神経系総論】 神経系の構成と発生 中枢神経系と末梢神経系 大脳			
8	【到達目標】 ・脊柱の彎曲と、その機能的意義を理解する ・頸椎・胸椎・腰椎・仙椎それぞれを構成する椎骨の形態的特徴を説明できる ・胸郭を構成する骨の連結様式を学び、呼吸時の胸郭の動きを説明できるようになる				24	【到達目標】 ・神経系の発生の概要がわかる ・末梢神経系・中枢神経系の基本構造と役割の違いがわかる ・ニューロンの組織構造を説明できる ・大脳の基本構造、大脳皮質の組織構築と機能局在、大脳髓質の線維走行を説明できる。			
9	【授業単元】 骨盤を構成する骨 上肢帯の骨 自由上肢骨				25	【授業単元】 間脳(視床、視床下部) 脳幹(中脳、橋、延髄)の構造と機能			
10	【到達目標】 ・寛骨(腸骨、恥骨、坐骨)の形態過程、仙骨との連結様式を説明できる ・上肢帯の骨を説明できる ・自由上肢骨の基本構造がわかる ・肩関節と肘関節の構造を説明できる				26	【到達目標】 ・間脳の基本構造と機能の概略を説明できる ・脳幹(中脳、橋、延髄)各部の特徴的構造と役割の概要を説明できる ・脳幹を貫く下行性、上行性伝導路の役割を理解できる ・脳幹に局在する多数の神経核と脳神経(後述)の関係を説明できるようになる			
11	【授業単元】 手の骨 大腿、下腿、足の骨 下肢の関節				27	【授業単元】 小脳の構造と機能 脳の血液 髄液の産生と循環路			
12	【到達目標】 ・手根骨、中手骨、指骨の配列と関節の特徴を説明できる ・握拳手根関節を説明できる ・大腿と下腿の骨、足の骨の基本構造と連結を説明できる ・下肢の主要関節の構造と動きの特徴を説明できる				28	【到達目標】 ・小脳の基本構造と主要な線維連絡を説明できる ・脳の血液(硬膜、クモ膜、軟膜)の構造と役割を説明できる ・脳脊髄液の産生部位、産生の仕組みと循環路を説明できる			
13	【授業単元】 頭部の骨				29	【授業単元】 定期試験			
14	【到達目標】 ・頭蓋、顔面を構成する骨の形態と配置、連結様式を説明できる ・副鼻腔を持つ骨を挙げることができる ・顎関節の構造と関節運動の特徴を説明できる				30	人体解剖実習オリエンテーション(定期試験終了後) 【到達目標】 総合判定で合格するに足る得点を定期試験で獲得する 後第1週に行う人体解剖実習に向けての心構えができる			
15	【授業単元】 中テスト 【筋学総論】 筋の組織学的分類と微細構造 器官としての骨格筋の基本構造、付着様式、形態的分類				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
16	【到達目標】 ・横紋筋、平滑筋、骨格筋、心筋の組織構造の特徴を説明できる ・骨格筋の起始・停止、筋の補助装置を説明できる ・骨格筋を形態的に分類できる								
【履修に当たっての心構え・留意点】 毎回の授業は学生諸君が配付資料の内容をあらかじめ予習してくることを前提にしている。講義室では予習して気づいた疑問点やわかりにくかったことを積極的に質問し、その授業の中で解決することを目指してほしい。									

授 業 概 要

科目名	解剖学演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	高野吉郎		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
生物としての人体の構造をミクロ、マクロの両視点から広く学び、作業療法士が身につけるべき人体の解剖学的見方を修得する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
医歯系総合大学で長く解剖学と組織学の教育に携わってきた教員が、作業療法士を志す諸君が修得すべき人体の正常構造について、運動器(骨・筋)、神経系、内臓諸器官系にわけてわかりやすく解説する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準理学療法学・作業療法学【解剖学(第5版)】医学書院					各回とも事前に配布する講義資料と教科書に目を通し、受講前に最低でも30分程度は講義範囲を予習することが望まれます				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 人体解剖実習【於順天堂大学医学部】				9	【授業単元】 循環器②			
	【到達目標】 ・解剖実習進行中のご遺体に触れ、剖出された組織や臓器を詳細に観察することで、体の構造と機能の理解を深める					【到達目標】 ・主翼動脈の分枝と走行を説明できる ・静脈系の血液灌流の仕組みを説明できる ・大静脈系、奇静脈系、門脈系を区別できる ・胎児の血液循環の特徴を説明できる			
2	【授業単元】 人体解剖実習【於順天堂大学医学部】				10	【授業単元】 呼吸器			
	【到達目標】 解剖実習進行中のご遺体に触れ、剖出された組織や臓器を詳細に観察することで、体の構造と機能の理解を深める					【到達目標】 ・上気道、下気道、呼吸器を区別できる ・気道の壁と気道上皮の構造の特徴を説明できる ・肺と気管支の左右差を説明できる ・肺の機能血管と栄養血管を区別できる			
3	【授業単元】 脊髄と脊髄神経				11	【授業単元】 消化器①			
	【到達目標】 ・脊髄の基本構造を説明できる ・脊髄神経索と神経叢の主な終枝を説明できる					【到達目標】 ・口腔の構造と機能を説明できる ・消化管各部の壁と粘膜上皮の構造の違いを説明できる			
4	【授業単元】 脳神経①				12	【授業単元】 消化器②			
	【到達目標】 ・脳神経の線維構成と走行、支配域を説明できる ・脳幹における脳神経核の局在部位がわかる					【到達目標】 ・消化管の付属線(肝臓・胆嚢・膵臓)の構造と機能を説明できる			
5	【授業単元】 脳神経				13	【授業単元】 泌尿器			
	【到達目標】 ・脳神経の線維構成と走行、支配域を説明できる ・脳幹における脳神経核の局在部位がわかる					【到達目標】 ・腎臓の基本構造と尿産生装置の概要を説明できる ・尿路(腎杯、腎盤、尿管、膀胱、尿道)の構造を説明できる			
6	【授業単元】 神経伝導路				14	【授業単元】 内分泌器			
	【到達目標】 ・主な神経伝導路を挙げることができる ・遠心性伝導路(髄体路と髄体街路)の線維走行の特徴を説明できる ・主な求心性(上行性)伝導路の脊髄白質における局在と線維走行を説明できる					【到達目標】 ・外分泌と内分泌の分泌様式の違いを説明できる ・主な内分泌器の構造と機能がわかる ・視床下部と下垂体による全身のホルモン産生の制御の仕組みがわかる			
7	【授業単元】 自律神経系				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 ・交感神経系と副交感神経系ニューロンの局在部位の特徴を説明できる ・交感神経系と副交感神経系における自律神経節の局在性の違いを説明できる ・自律神経系における知覚ニューロンの求心路を説明できる					【到達目標】 総合判定で合格するに足る得点を定期試験で獲得する			
8	【授業単元】 中テスト 循環器①				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 ・中テストで後期前半の履修内容を十分に理解していることを示す ・血液と体液循環の概要を説明できる ・心臓の構造と機能を説明できる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
毎回の授業は学生諸君が配付資料の内容をあらかじめ予習してくることを前提にしている。講義室では予習して気づいた疑問点やわかりにくかったことを積極的に質問し、その授業の中で解決することを目指してほしい。									

授 業 概 要

科目名	生理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	渡辺 陵介		
学科 コース	作業療法士科屋間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】 生理学の基礎知識を身につけることができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 身体障害領域の回復期リハビリテーションを主として急性期・老健施設にて7年の臨床経験があります。また、大学院での研究や学会発表経験をしてきました。復習も取り入れながら授業を進め、知識の定着を図ります。									
【使用教科書・教材・参考図書】 標準理学療法学・作業療法学 生理学第5版 医学書院					【授業時間外における学習】 授業内容の復習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 細胞の構造と機能、興奮伝導				9	【授業単元】 尿の生成と排泄 酸塩基平衡			
	【到達目標】 授業の進め方を理解できる 膜電位を説明できる シナプス伝達を説明できる					【到達目標】 腎臓の機能を説明できる 酸塩基平衡について説明できる			
2	【授業単元】 神経系				10	【授業単元】 消化と吸収			
	【到達目標】 末梢神経について説明できる 中枢神経について説明できる					【到達目標】 各消化管の消化メカニズムを説明できる			
3	【授業単元】 筋と骨				11	【授業単元】 内分泌			
	【到達目標】 筋の収縮について説明できる 骨吸収と骨形成を説明できる					【到達目標】 各ホルモンの作用について説明できる			
4	【授業単元】 感覚				12	【授業単元】 代謝と体温、生殖			
	【到達目標】 体性感覚について説明できる 特殊感覚について説明できる					【到達目標】 エネルギー代謝を説明できる 体温調節を説明できる 生殖機能について説明できる			
5	【授業単元】 血液				13	【授業単元】 運動生理			
	【到達目標】 血液の組成と機能について説明できる					【到達目標】 運動に伴う全身の変化を説明できる			
6	【授業単元】 心臓と循環				14	【授業単元】 疾患と生理学			
	【到達目標】 血液循環について説明できる 心臓の働きについて説明できる					【到達目標】 生理学の知識を用いて代表的な内部疾患の説明ができる			
7	【授業単元】 呼吸とガス交換				15	【授業単元】 復習 定期テスト			
	【到達目標】 呼吸器について説明できる ガス交換について説明できる					【到達目標】 総復習と試験にて学習の理解度を確認できる			
8	【授業単元】 前半のまとめ 中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】 教科書等を参照しながら、主体的に取り組むこと。									

授 業 概 要

科目名	生理学演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	渡辺 陵介		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】 生理学の知識を用いて、人間の生体反応を説明できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 身体障害領域の回復期リハビリテーションを主として急性期・老健施設にて7年の臨床経験があります。また、大学院での研究や学会発表経験をしてきました。生理学の知識を使って、生体反応を説明できるようにグループワークを中心に進めます。									
【使用教科書・教材・参考図書】 標準理学療法学・作業療法学 生理学第5版 医学書院					【授業時間外における学習】 授業内容の復習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 生理学の復習				9	【授業単元】 骨、筋、神経系の調べ学習			
	【到達目標】 授業の進め方を理解できる 前期の復習を行い、理解度を確認できる					【到達目標】 骨、筋、神経系に関する知識の伝達ができる			
2	【授業単元】 血圧と脈拍				10	【授業単元】 骨、筋、神経系の調べ学習:発表			
	【到達目標】 血圧と脈拍のメカニズムを説明できる					【到達目標】 骨、筋、神経系に関する知識の伝達ができる			
3	【授業単元】 スパイロメーター				11	【授業単元】 循環系、呼吸器系の調べ学習			
	【到達目標】 スパイロメーターで測定できるものを説明できる					【到達目標】 循環器系、呼吸系に関する知識の伝達ができる			
4	【授業単元】 呼吸分析				12	【授業単元】 循環系、呼吸器系の調べ学習:発表			
	【到達目標】 呼吸分析で測定できるものを説明できる					【到達目標】 循環器系、呼吸系に関する知識の伝達ができる			
5	【授業単元】 筋収縮				13	【授業単元】 消化器系、排泄系の調べ学習			
	【到達目標】 筋収縮の種類とメカニズムについて説明できる					【到達目標】 消化器系、排泄系に関する知識の伝達ができる			
6	【授業単元】 反射				14	【授業単元】 消化器系、排泄系の調べ学習:発表			
	【到達目標】 反射のメカニズムを説明できる					【到達目標】 消化器系、排泄系に関する知識の伝達ができる			
7	【授業単元】 嚥下				15	【授業単元】 復習 定期テスト			
	【到達目標】 嚥下について説明できる					【到達目標】 総復習と試験にて学習の理解度を確認できる			
8	【授業単元】 前半のまとめ 中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。 9～14回の小テストは発表形式の試験とする。				
	【到達目標】 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】 教科書等を参照しながら、主体的に取り組むこと。									

授業概要

科目名	一般臨床医学 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	星野 裕亮		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学び理解できること									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学病院でかつ急性期医療の中で働く作業療法士が、臨床現場で必要となる医学知識を経験談を交えて提供する。必要に応じてグループワークを行い、各疾患における様々なリスク管理や作業療法の展開の仕方を学ぶ									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
授業資料、指定教科書					自主学習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	<p>【授業単元】 医学概論(医学の基本、疾病の概念)</p> <p>【到達目標】 医学の歴史について説明できる、生命倫理について説明できる、医の倫理について説明できる、疾病の定義と分類について説明できる</p>				9	<p>【授業単元】 中枢神経の障害と臨床医学</p> <p>【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、中枢神経の障害の一般的疾患について説明できる</p>			
2	<p>【授業単元】 臨床医学総論(病理学概論、疾病の診断、疾病の治療)</p> <p>【到達目標】 疾病の原因と身体的変化を理解する、疾病診断の概要を理解する、疾病治療の概要を理解する</p>				10	<p>【授業単元】 末梢神経・筋の障害と臨床医学</p> <p>【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、末梢神経・筋障害の一般的疾患について説明できる</p>			
3	<p>【授業単元】 リハビリテーション医療の総論、健康と生活機能の評価、リハビリテーション計画チームと他職種連携</p> <p>【到達目標】 リハビリテーション医学の概要について理解する、健康と生活機能に関わる評価について理解する、リハビリテーション計画について理解する、リハビリテーションチームと他職種連携について理解する、かつそれぞれについて説明できる</p>				11	<p>【授業単元】 小児の障害と臨床医学</p> <p>【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、小児の障害の一般的疾患について説明できる</p>			
4	<p>【授業単元】 救急医学</p> <p>【到達目標】 救急医療体制について説明できる、症候群について説明できる、心肺蘇生・応急処置の方法について説明できる</p>				12	<p>【授業単元】 内部障害と臨床医学</p> <p>【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、各内部障害の一般的疾患について説明できる</p>			
5	<p>【授業単元】 臨床心理学(基礎理論、発達心理および臨床心理)</p> <p>【到達目標】 人の行動と心理を理解するための基礎的な知識と考え方を学ぶ 臨床心理学の基礎について理解する 発達に沿った心理と心理療法について理解する</p>				13	<p>【授業単元】 がん関連障害と臨床医学</p> <p>【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、がん関連障害の一般的疾患について説明できる</p>			
6	<p>【授業単元】 精神障害と臨床医学</p> <p>【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、その他の治療について説明できる、精神障害の一般的疾患について説明できる</p>				14	<p>【授業単元】 皮膚障害と臨床医学</p> <p>【到達目標】 疫学について説明できる、病理・病態・症候について説明できる、評価・検査について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、その他の治療について説明できる</p>			
7	<p>【授業単元】 骨関節障害と臨床医学</p> <p>【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、その他の治療について説明できる、骨関節疾患の一般的疾患について説明できる</p>				15	<p>【授業単元】 老年期障害と臨床医学</p> <p>【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、老年期障害の一般的疾患について説明できる</p>			
8	<p>【授業単元】 痛みと臨床医学</p> <p>【到達目標】 疫学・予後について説明できる、病因・症候について説明できる、評価・検査・診断について説明できる、リハビリテーション医療について説明できる、慢性疼痛の分類について説明できる</p>				<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>○科目の評価は、定期試験60%、授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。</p> <p>○試験はteams上で行う(詳細は授業動画内、teams上でアナウンスを行う)。</p> <p>○授業の小テストは合計65点、中テスト(おおよそ半分の授業回数で実施予定)は15点満点とする(合計80点)。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
録画授業なので、わからないことがあればteams上でいつでも質問してください。									

授 業 概 要

科目名	臨床心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	小林 誠		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
心理的な対人援助の方法と実際について理解することで、医療・福祉の現場で人を心理的に支援する能力を身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
講師は、作業療法士として16年目となり、そのうち精神科病院での勤務は11年。私たち(対人援助職)が知っておくべき臨床心理学を分かりやすく、楽しく伝える。また、講師は国家試験対策にも精通しており、国家試験に合格できる知識を獲得することを目指す。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
リハビリテーションのための臨床心理学 牧瀬英幹著 南江堂 医療行動科学のためのカレント・トピックス 津田彰編集 北大路書店					授業内容の復習。 誰かに伝えるつもりで復習をしてみましょう。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 【到達目標】 この科目の進め方や、臨床心理学の全体像をつかむ。				9	【授業単元】 シリーズ<2>: 医療の行動科学⑤ 【到達目標】 社会の変化と家族の変容について、簡潔に説明できる。 その他の内容: 認知行動療法ステップ5 国家試験対策(後編)			
2	【授業単元】 シリーズ<1>: 対人関係について考えてみよう① 【到達目標】 対人関係について、簡潔に説明できる。 キーワード: セルフモニタリング、原因帰属、非言語的コミュニケーション など				10	【授業単元】 シリーズ<3>: さらに臨床心理学にせまる① 【到達目標】 ～心理アセスメントの方法と倫理～ 心理アセスメントの意義と方法、倫理について簡潔に説明できる。			
3	【授業単元】 シリーズ<1>: 対人関係について考えてみよう② 【到達目標】 対人関係について、簡潔に説明できる。 キーワード: 社会的ジレンマ、援助、集団 など				11	【授業単元】 シリーズ<3>: さらに臨床心理学にせまる② 【到達目標】 ～心理検査～ 心理検査の実施前後に考慮することや、心理検査の種類について簡潔に説明できる。			
4	【授業単元】 シリーズ<1>: 対人関係について考えてみよう③ 【到達目標】 対人関係について、簡潔に説明できる。 キーワード: リーダー、攻撃、流行、攻撃、犯罪心理 など				12	【授業単元】 シリーズ<3>: さらに臨床心理学にせまる③ 【到達目標】 ～無意識の欲望を探る精神分析/行動や認知の変容・制御を目指す～ 精神分析について簡潔に説明できる。 行動療法や認知行動療法について簡潔に説明できる。			
5	【授業単元】 シリーズ<2>: 医療の行動科学① 【到達目標】 障害受容、心理的安全性について、簡潔に説明できる。 その他の内容: 認知行動療法ステップ1				13	【授業単元】 シリーズ<3>: さらに臨床心理学にせまる④ 【到達目標】 ～人間の実現傾向を重視する/さまざまな心理療法的アプローチ～ クライアント中心療法について簡潔に説明できる。 家族療法、森田療法、交流分析について簡潔に説明できる。			
6	【授業単元】 シリーズ<2>: 医療の行動科学② 【到達目標】 医療者としての適性、防衛機制について、簡潔に説明できる。 その他の内容: 認知行動療法ステップ2				14	【授業単元】 シリーズ<3>: さらに臨床心理学にせまる⑤ 【到達目標】 ～発達と心の問題/認知機能のアセスメントと支援～ フロイト、エリクソン、ピアジェの理論について簡潔に説明できる。 記憶、注意、遂行機能について簡潔に説明できる。			
7	【授業単元】 シリーズ<2>: 医療の行動科学③ 【到達目標】 医療者の仕事とストレスについて、転移・逆転移について簡潔に説明できる。 その他の内容: 認知行動療法ステップ3				15	【授業単元】 定期テスト 【到達目標】 計15回の総合計得点: 60点以上			
8	【授業単元】 シリーズ<2>: 医療の行動科学④ 【到達目標】 心理的アプローチによる医療事故防止について簡潔に説明できる。 その他の内容: 認知行動療法ステップ4、国家試験対策(前編)				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、A～Fの6段階で評価する。 100点の内訳は、 ①定期テストが60点満点。 ②小テスト(各回の合計)が40点満点。 ②の内訳は、 第1回授業 … 1点 第2～14回 … 3点 × 13回 = 39点 (以上 合計で40点) ①と②の合計で100点満点。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
本科目は「心理学」をさらに専門的にした内容です。「臨床」や「対人」といったキーワードが、内容の柱となっています。難しい言葉がたくさん出てくるかもしれませんが、様々な専門家が築いてきた知識を手に入れることができます。どうか楽しんで下さい。									
※本科目では、中テストは行わない。 ※定期テスト、小テストは資料持ち込み可。									

授 業 概 要

科目名	リハビリテーション概論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	濱畑法生		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
リハビリテーションは、複数の制度によるサービス体系によって構成され、多様な専門職による複数の療法や訓練で提供されるため、複雑な過程となっている。ここでは、それらの一連の流れを整理して理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
作業療法士免許を取得して35年経験があり、その間臨床現場で15年、大学教員として16年、専門学校で2年の教育研究歴を持つ。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
入門リハビリテーション概論第7補訂版					30分程度の復習を要する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 リハビリテーションとは				9	【授業単元】			
	【到達目標】 リハビリテーションについて、概要を理解する。					【到達目標】			
2	【授業単元】 病気と障害モデル				10	【授業単元】			
	【到達目標】 リハビリテーションでは、医学モデルだけでなくそれ以外の障害モデルが存在する。対象者の状況に合わせてモデルを使い分けていく考え方が一般的であり、ここではその概念を学ぶ。					【到達目標】			
3	【授業単元】 リハビリテーションと心理				11	【授業単元】			
	【到達目標】 リハビリテーションは、病気を対象にするのではなく、病気を抱った人に対してアプローチする心身二元論に基づき身体運動だけでなく心理領域についても学ぶ必要がある。ここではその考えを理解する。					【到達目標】			
4	【授業単元】 リハビリテーションの諸段階				12	【授業単元】			
	【到達目標】 リハビリテーションは、発症から入院、退院、その後の在宅生活のフォローを行う。その段階に応じた知識を理解する。					【到達目標】			
5	【授業単元】 リハビリテーションの過程				13	【授業単元】			
	【到達目標】 リハビリテーションは、評価・計画・治療・再評価のPDCAサイクルに基づいて流れていく。その一連の流れを理解する。					【到達目標】			
6	【授業単元】 リハビリテーションを支える社会保障制度①				14	【授業単元】			
	【到達目標】 保健医療制度、社会保険制度について理解する。					【到達目標】			
7	【授業単元】 リハビリテーションを支える社会保障制度②				15	【授業単元】			
	【到達目標】 社会福祉と公的扶助、介護保険制度について理解する。					【到達目標】			
8	【授業単元】 まとめ、試験				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験またはTeamsを利用して行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、その合計点数(小数点以下切り上げ)を40点に換算し小テストの合計点とする。				
	【到達目標】								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授 業 概 要

科目名	職業リハビリテーション	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大和田 みな未		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
ICFにおける「生産活動」及び就労、仕事などに関わる概念を理解することで、就労支援と生活支援の意味を理解し、実際の地域活動に参加できる能力を身につける。心理社会的発達における生産性と世代性、キャリア形成論などを理解し、人にとって職業及び働くことの意味について様々な観点から理解を深める。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学院にて研究・学会発表経験を持ち、精神障害領域、身体障害領域で約8年間臨床経験を積んだ教員が、作業療法実践に必要な知識・技能についてイメージを持ち、作業療法に対するモチベーションを高められるような授業を行っていきます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
就労支援までの作業療法 基礎から臨床実践まで 必要時に授業資料・スライドをteamsにアップします。					授業内で提示した課題への取り組みを積極的に行いましょう。 就労支援について関心を持ち、自ら積極的に情報収集をしていきましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 就労支援の歴史について				9	【授業単元】			
	【到達目標】 就労支援の歴史と現状について理解できる					【到達目標】			
2	【授業単元】 就労支援の基礎概念について				10	【授業単元】			
	【到達目標】 働くことの意味について理解し自身の考えを持つことができる 作業療法と就労視線の関わりについて理解できる					【到達目標】			
3	【授業単元】 就労支援の実際について				11	【授業単元】			
	【到達目標】 就労支援を行う際の流れや必要な評価について理解できる					【到達目標】			
4	【授業単元】 身体障害領域での就労支援について				12	【授業単元】			
	【到達目標】 身体障害領域での終了支援において必要な評価、介入の視点、具体的な支援、課題について理解できる					【到達目標】			
5	【授業単元】 精神障害領域での就労支援について				13	【授業単元】			
	【到達目標】 精神障害領域での終了支援において必要な評価、介入の視点、具体的な支援、課題について理解できる					【到達目標】			
6	【授業単元】 知的・発達障害領域での就労支援について				14	【授業単元】			
	【到達目標】 知的・発達障害領域での終了支援において必要な評価、介入の視点、具体的な支援、課題について理解できる					【到達目標】			
7	【授業単元】 司法・地域での就労支援について				15	【授業単元】			
	【到達目標】 司法・地域における就労支援に必要な評価、介入の視点、具体的な支援、課題について理解できる					【到達目標】			
8	【授業単元】 これまでの復習と定期テスト 解説				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は筆記で行う。 小テスト・定期テストの点数合計時、その数が整数でない場合は小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
将来作業療法士となるという自覚を持ち、作業療法への理解を深め、自身の目標とする作業療法士像をかたちづくっていきましょう。									

授 業 概 要

科目名	社会福祉概論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	細田 明		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業 形態	講義	総単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
社会福祉の基本理念、その運動と歴史を学ぶことにより、多様な人々の生活と社会の力動性を理解した上で対象者に関与できる能力を身につける。社会保険論、障害者福祉論、社会福祉法制の基盤と社会福祉の機構について理解する。									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)									
老年期作業療法を中心に病院・クリニック・通所リハ・老人ホーム等実績の臨床18年目の当校夜間課程卒業生である教員が、臨床に於ける社会福祉の価値や倫理を学び、対人援助職に大切な視点を学習する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
コメディカルのための社会福祉概論／講談社 適宜書籍を紹介する									
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 社会福祉とは 日本の社会福祉の歴史				9	【授業単元】			
	【到達目標】 社会福祉という用語は多義的な意味合いを含む言葉が多くなっている。また類似の用語も使用されているようになってきている。まずこれらの言葉を整理していく。我が国の、それぞれの時代に於ける社会福祉の背景や動向を理解する。					【到達目標】			
2	【授業単元】 社会制度と社会制度を展開する組織・子供福祉 小テスト				10	【授業単元】			
	【到達目標】 社会保障制度の体系・社会保険・公的扶助・社会福祉を展開する組織について理解する。子供を取り巻く社会状況、施策について理解する。					【到達目標】			
3	【授業単元】 障害者福祉 小テスト				11	【授業単元】			
	【到達目標】 障害者福祉の理念や基本的な考え方を学ぶ。					【到達目標】			
4	【授業単元】 高齢者福祉 小テスト				12	【授業単元】			
	【到達目標】 高齢者の現状と高齢者を支援する制度・政策を概観し、その在り方を理					【到達目標】			
5	【授業単元】 介護保険制度と専門職の役割 小テスト				13	【授業単元】			
	【到達目標】 介護保険制度について理解し、サービス提供を担う専門職について学ぶ					【到達目標】			
6	【授業単元】 地域福祉とその推進方法 小テスト				14	【授業単元】			
	【到達目標】 地域そのものを基盤とした新しい福祉の形態について理解する。					【到達目標】			
7	【授業単元】 医療福祉 小テスト				15	【授業単元】			
	【到達目標】 日本の社会保障制度の一つとして、医療保険制度が位置付けられている。この概要について理解する。					【到達目標】			
8	【授業単元】 精神保健福祉 テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、A～Fの6段階で評価する。 小テスト: 6コマ = 40点 テスト: = 60点				
	【到達目標】 精神障害者の定義と取り巻く状況・法制度について学ぶ。								
【履修に当たっての心構え・留意点】					(計 100点満点)				

授 業 概 要

科目名	基礎作業学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	小泉雄一		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・作業の概念を理解することで、作業療法が作業に基づく実践であることを多角的に説明する能力を身につける。 ・作業の定義、作業の目的別区分(生産活動、遊び、セルフケア)について理解する。 ・作業・活動分析の目的と形式を理解する。 ・「作業科学」の基礎を学び、人文学的に作業の意味を理解する。 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
教員は、身障領域、精神領域、発達領域、高齢者領域の経験も含めたOT31年目。すべての領域に共通する「作業」について考え、「作業」の理論を学ぶことで作業療法士が作業を用いる意味を教えていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
長崎重信 監:作業学 改訂第3版(作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト)、メジカルビュー社、2021					作業療法における「作業」「作業理論」を理解できるようにテキスト、授業資料にて自己学習をする。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 作業学総論				9	【授業単元】 人間作業モデル①			
	【到達目標】 ・作業の必要性和意義について理解する ・作業を用いた療法に関連する基本的事項について理解する					【到達目標】 MOHOについて理解する			
2	【授業単元】 作業分析				10	【授業単元】 人間作業モデル②			
	【到達目標】 ・作業分析について理解する ・作業の項目について理解する ・作業分析をもとに作業を評価的に用いることについて理解する					【到達目標】 作業適応について理解する			
3	【授業単元】 治療への応用:身体障害				11	【授業単元】 精神分析と作業			
	【到達目標】 ケーススタディによって身体障害領域の作業について理解する					【到達目標】 人の心について理解する			
4	【授業単元】 治療への応用:精神障害				12	【授業単元】 カナダ作業モデル			
	【到達目標】 ケーススタディによって精神障害領域の作業について理解する					【到達目標】 人・作業・環境の相互作用について理解する			
5	【授業単元】 治療への応用:発達障害				13	【授業単元】 感覚統合と作業①			
	【到達目標】 ケーススタディによって発達障害領域の作業について理解する					【到達目標】 感覚統合理論について理解する			
6	【授業単元】 治療への応用:高齢障害者				14	【授業単元】 感覚統合と作業②			
	【到達目標】 ケーススタディによって高齢障害領域の作業について理解する					【到達目標】 感覚刺激と発達について理解する			
7	【授業単元】 治療への応用:老健				15	【授業単元】 定期テスト 内容振り返り			
	【到達目標】 ケーススタディによって老健領域の作業について理解する					【到達目標】 第9回～14回までの作業の理解を深める			
8	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 第1～7回までの作業についての理解を深める								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
基礎作業学演習と合わせて理解できるようテキストにて予習・復習しておく									

授 業 概 要

科目名	作業療法理論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	濱畑法生		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
リハビリテーションにおける作業療法士の意義と作業療法士の役割を把握することができる。 作業療法士になるために学ばなければならないことの概略と理論を把握し、学習意欲を高めることができる。									
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
作業療法士免許を取得して35年経歴があり、その間臨床現場で15年、大学教員として16年、専門学校で2年の教育研究歴を持つ。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論 第4版					事前に教科書や講義資料を確認して下さい。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 作業の意味	【到達目標】 作業療法としての「作業」の意味を理解できる。 作業療法の定義を理解し説明できる。			9	【授業単元】 作業療法の実践課程について①	【到達目標】 作業療法の実践課程について理解することができる。 評価の視点について理解し、問題点の抽出を行うことができるようになる。		
	【到達目標】 作業療法としての「作業」の意味を理解できる。 作業療法の定義を理解し説明できる。								
2	【授業単元】 作業療法の歴史と原理	【到達目標】 作業療法の歴史と原理について理解することができる。			10	【授業単元】 作業療法の実践課程について②	【到達目標】 治療・指導・支援計画の立案・フォローアップの流れを理解できるようになる。 作業療法における思考過程と態度について理解し、実践できるようになる		
	【到達目標】 作業療法の歴史と原理について理解することができる。								
3	【授業単元】 作業療法の実践現場について	【到達目標】 作業療法の領域と実践場所について、その特徴に気づき説明することができる。 作業療法士が働く現場について具体的なイメージをもつことができる。			11	【授業単元】 社会保障制度について	【到達目標】 社会保障制度について知識を得ることができる。		
	【到達目標】 作業療法の領域と実践場所について、その特徴に気づき説明することができる。 作業療法士が働く現場について具体的なイメージをもつことができる。								
4	【授業単元】 作業の治療的適応	【到達目標】 作業の治療的適応について理解することができる。			12	【授業単元】 作業療法の記録と報告について	【到達目標】 作業療法士が行う記録・報告について理解し実践できる。		
	【到達目標】 作業の治療的適応について理解することができる。								
5	【授業単元】 作業療法の理論	【到達目標】 作業療法の理論について理解することができる。 ICFについて理解し、活用することができる。			13	【授業単元】 作業療法の現場と実際①	【到達目標】 各領域における作業療法の実践について学び、具体的なイメージを持てるようになる。 今までの学びを踏まえつつ、作業療法像を具体化することができる。		
	【到達目標】 作業療法の理論について理解することができる。 ICFについて理解し、活用することができる。								
6	【授業単元】 医療倫理と作業療法士に求められる資質・適性①	【到達目標】 医療倫理と作業療法士に求められる資質・適性について理解することができる。 学んだことを活かして行動できるようになる。			14	【授業単元】 作業療法の現場と実際②	【到達目標】 各領域における作業療法の実践について学び、具体的なイメージを持てるようになる。 今までの学びを踏まえつつ、作業療法像を具体化することができる。		
	【到達目標】 医療倫理と作業療法士に求められる資質・適性について理解することができる。 学んだことを活かして行動できるようになる。								
7	【授業単元】 医療倫理と作業療法士に求められる資質・適性②	【到達目標】 医療倫理と作業療法士に求められる資質・適性について理解することができる。 学んだことを活かして行動できるようになる。			15	【授業単元】 これまでの復習と定期テスト	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。		
	【到達目標】 医療倫理と作業療法士に求められる資質・適性について理解することができる。 学んだことを活かして行動できるようになる。								
8	【授業単元】 これまでの復習と中テスト 解説	【到達目標】 前半の学びを振り返ることができる			【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 前半の学びを振り返ることができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
将来作業療法士となるという自覚を持ち、作業療法への理解を深め、自身の目標とする作業療法士像をかたちづくっていきましょう。									

授 業 概 要

科目名	基礎作業学実習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	小泉雄一		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の 方法	実習	単位数	2 単位	総時間数	90 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法の治療手段であり目的でもある作業活動を行うことを通じて、その基礎的な知識と技術を習得する。 ・作業活動の実践において協働や参加の意義を感得し表現する。 ・生活行為マネジメントについて理解する。地域における音楽・美術・スポーツ・文芸・手工芸活動等の文化活動のいずれかに参加する。 ・作業・活動分析を実際に行うことができる。 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
<p>教員は、身障領域、精神領域、発達領域、高齢者領域の経験も含めたOT31年目。すべての領域に共通する「作業」について考え、「作業」の理論を学ぶことで作業療法士が作業を用いる意味を教える。</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
長崎重信 監:作業学 改訂第3版(作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト)。マジカルビュー社, 2021					各回における作業課題を作業分析し実施手順、作業特性を理解できるように自己学習をする。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 作業(手工芸)とは				9	【授業単元】 タイルモザイク①			
	【到達目標】 手工芸の種類、意味などについて理解する					【到達目標】 道具、材料、手順を理解する			
2	【授業単元】 折り紙				10	【授業単元】 タイルモザイク②			
	【到達目標】 道具、材料、手順を理解する 作業の持つ意味を理解する					【到達目標】 作業の持つ意味を理解する			
3	【授業単元】 和紙細工				11	【授業単元】 陶芸②			
	【到達目標】 道具、材料、手順を理解する 作業の持つ意味を理解する					【到達目標】 作業の持つ意味を理解する			
4	【授業単元】 革細工①				12	【授業単元】 七宝焼			
	【到達目標】 道具、材料、手順を理解する					【到達目標】 ・道具、材料、手順を理解する ・作業の持つ意味を理解する			
5	【授業単元】 革細工②				13	【授業単元】 木工①			
	【到達目標】 作業の持つ意味を理解する					【到達目標】 道具、材料、手順を理解する			
6	【授業単元】 革細工③				14	【授業単元】 木工②			
	【到達目標】 作業の持つ意味を理解する					【到達目標】 作業の持つ意味を理解する			
7	【授業単元】 陶芸①				15	【授業単元】 定期テスト			
	【到達目標】 道具、材料、手順を理解する					【到達目標】 基礎作業学についての国家試験問題や小論文を通して、作業に対する理解を深める			
8	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 基礎作業学についての国家試験問題を通して、道具や材料などの理解を深める								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
作品作成に時間をかけて欲しいので、余裕のあるスケジュールになっていますが、作品の完成スピードによってはスケジュールを変更するかもしれません。									

授 業 概 要

科目名	身体運動系評価学Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	田中 直幸		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
身体運動系の基礎的な評価技法を習得できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
回復期リハビリテーション病院、訪問リハビリテーションにて勤務し、身体障害領域の小児から高齢者まで幅広く臨床経験があります。この授業では、身体運動系の作業療法評価について講義と実技練習を通して習得していきます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
参考図書は適宜紹介する					授業内容の復習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 作業療法評価とは				9	【授業単元】 形態計測1			
	【到達目標】 授業の進め方を理解できる。 作業療法評価の意義について説明できる。					【到達目標】 形態計測を説明、実施できる。			
2	【授業単元】 作業療法評価の流れ				10	【授業単元】 形態計測2			
	【到達目標】 作業療法評価の流れについて説明できる。					【到達目標】 形態計測を説明、実施できる。			
3	【授業単元】 作業療法評価の記録				11	【授業単元】 反射検査			
	【到達目標】 作業療法評価での記録の方法を説明できる。					【到達目標】 反射検査を説明、実施できる。			
4	【授業単元】 対象者への説明				12	【授業単元】 関節可動域測定1			
	【到達目標】 対象者への説明ができる。					【到達目標】 上肢の関節可動域測定を説明、実施できる。			
5	【授業単元】 意識の評価				13	【授業単元】 関節可動域測定2			
	【到達目標】 意識状態の評価を説明、実施できる。					【到達目標】 上肢の関節可動域測定を説明、実施できる。			
6	【授業単元】 バイタルサインの測定1				14	【授業単元】 関節可動域測定3			
	【到達目標】 バイタルサインの測定を説明、実施できる。					【到達目標】 上肢の関節可動域測定を説明、実施できる。			
7	【授業単元】 バイタルサインの測定2				15	【授業単元】 定期テスト(実技試験) 総まとめ			
	【到達目標】 バイタルサインの測定を説明、実施できる。					【到達目標】 総復習と試験にて学習の理解度を確認できる			
8	【授業単元】 前半のまとめ 中テスト(実技試験)				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。				<p>科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。</p> <p>また、試験は実技試験もしくは筆記試験にて行う。</p> <p>毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。</p>				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
実技を身につけられるように積極的に取り組むこと。									

授 業 概 要

科目名	精神心理系評価学 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大和田 みな未		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
主に精神障害領域でのリハビリテーション評価全般と、一般的な作業療法評価について学ぶ。相互交流的リーズニングについて理解する。省察により自己理解を深めることによって、対話スキル、自己表現スキル、社会的スキルなどを身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学院にて研究・学会発表経験を持ち、精神障害領域、身体障害領域で約8年間臨床経験を積んだ教員が、作業療法実践に必要な知識・技能についてイメージを持ち、作業療法に対するモチベーションを高められるような授業を行います。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
必要時に授業資料・スライドをteamsにアップします。					演習を通しながら、臨床で対象者へ評価を行うイメージを養っていきましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 評価とは 【到達目標】 作業療法に必要な評価について理解することができる				9	【授業単元】 他者を評価してみよう 評価に必要なコミュニケーション技法について 【到達目標】 他者を知るためのコミュニケーション技法について理解し実践できるようになる			
2	【授業単元】 自身を評価してみよう 心理テスト 【到達目標】 評価ツールを通して、自分を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる				10	【授業単元】 他者を評価してみよう HDS-Rについて 【到達目標】 評価ツールを通して、他者を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる 評価結果を相手にどう伝えるかを考えることができる			
3	【授業単元】 自身を評価してみよう 心理テスト 【到達目標】 評価ツールを通して、自分を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる				11	【授業単元】 他者を評価してみよう MMSEについて 【到達目標】 評価ツールを通して、他者を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる 評価結果を相手にどう伝えるかを考えることができる			
4	【授業単元】 自身を評価してみよう クレペリンテスト 【到達目標】 評価ツールを通して、自分を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる				12	【授業単元】 他者を評価してみよう 注意機能評価について 【到達目標】 評価ツールを通して、他者を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる 評価結果を相手にどう伝えるかを考えることができる			
5	【授業単元】 自身を評価してみよう 認知特性について 【到達目標】 評価ツールを通して、自分を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる				13	【授業単元】 他者を評価してみよう COPMIについて 【到達目標】 評価ツールを通して、他者を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる 評価結果を相手にどう伝えるかを考えることができる			
6	【授業単元】 自身を評価してみよう 意欲、ストレス、気分について 【到達目標】 評価ツールを通して、自分を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる				14	【授業単元】 他者を評価してみよう MTDLPIについて 【到達目標】 評価ツールを通して、他者を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる 評価結果を相手にどう伝えるかを考えることができる			
7	【授業単元】 他者を評価してみよう 面接・観察について ウォッチリストについて 【到達目標】 評価ツールを通して、他者を知ることができる 評価の方法、効果を知ることができる				15	【授業単元】 これまでの復習と定期テスト 解説 【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。			
8	【授業単元】 これまでの復習と中テスト 解説 【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は筆記で行う。 毎回授業の小テストと定期テストの点数の合算にて評価を行うかが、その数が整数でない場合は小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
自身・他者に興味を持ちましょう。作業療法評価に必要な視点について学び、現場での実践に備えましょう。									

授 業 概 要

科目名	日常生活活動学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	大和田 みな未		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
ICFにおける生活機能を概観し、日常でその生活機能に支障があった場合の改善策について理解し、工夫の方法を学ぶ。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学院にて研究・学会発表経験を持ち、精神障害領域、身体障害領域で約8年間臨床経験を積んだ教員が、作業療法実践に必要な知識・技能についてイメージを持ち、作業療法に対するモチベーションを高められるような授業を行います。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
ADLとその周辺 必要時に授業資料・スライドをteamsにアップします。					授業で学んだことを積極的に予習・復習しましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ADL、IADL、GOLIについて				9	【授業単元】 排泄動作について			
	【到達目標】 ADL、IADL、GOLIについて理解できる 上記と作業療法の繋がりについて理解できる					【到達目標】 各動作において必要な要素・工夫について考えることができる。			
2	【授業単元】 ICIDHとICFについて				10	【授業単元】 入浴動作について			
	【到達目標】 ICIDHとICFについて理解できる ICFを活用し対象者の全体像をまとめることができる					【到達目標】 各動作において必要な要素・工夫について考えることができる。			
3	【授業単元】 起居動作・移乗動作について				11	【授業単元】 コミュニケーション、認知について			
	【到達目標】 各動作において必要な要素・工夫について考えることができる。					【到達目標】 各動作において必要な要素・工夫について考えることができる。			
4	【授業単元】 移動動作について				12	【授業単元】 FIM、BIIについて①			
	【到達目標】 各動作において必要な要素・工夫について考えることができる。					【到達目標】 FIM、BIIについて理解できる			
5	【授業単元】 更衣動作について				13	【授業単元】 FIM、BIIについて②			
	【到達目標】 各動作において必要な要素・工夫について考えることができる。					【到達目標】 FIM、BIIについて理解できる			
6	【授業単元】 整容動作について				14	【授業単元】 環境調整と社会資源について			
	【到達目標】 各動作において必要な要素・工夫について考えることができる。					【到達目標】 環境調整と社会資源について理解できる			
7	【授業単元】 食事動作について				15	【授業単元】 これまでの復習と定期テスト 解説			
	【到達目標】 各動作において必要な要素・工夫について考えることができる。					【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。			
8	【授業単元】 これまでの復習と中テスト 解説				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト・中テスト等40%の配分で 総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は筆記で行う。 毎回授業の小テスト・中テストと定期テストの点数の合算にて評価を行うが、 その数が整数でない場合は小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
日常生活を構成する動作について学び、日常生活活動における作業療法士の 視点について考えられるようになります。									

授 業 概 要

科目名	地域作業療法学Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	小泉雄一・他9名				
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2	単位	総時間数	30	時間
【授業を通じての到達目標】											
<ul style="list-style-type: none"> ・地域における作業療法をとりまく医療・福祉の理念、サービス体系、推進方法などを説明出来るようになる。 ・地域作業療法実習の意義について理解する。 											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
<p>作業療法士としての実務経験が5年以上の教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえ、地域における作業療法について授業を展開する。担当教員：佐藤祐子・小泉雄一・田中直幸・中村勇貴・大和田みな未・大橋航祐・渡辺陵介・泉良太・濱畑法生・石井茉弥</p>											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
地域作業療法実習要項 各教科書						地域で行われている作業療法について、通所と訪問を中心に事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
授業計画											
地域における作業療法の実際について、資料収集をする。											
<ul style="list-style-type: none"> ・今までに体験した実習の中から、実習分野（利用者理解含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ・リスク管理（ITリテラシー・感染管理）についての理解 ・手洗い・手袋・マスクの着用の仕方 ・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解（個人情報保護法の理解を含む） ・「日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解と行った記録についての確認 											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心がまえが求められる。						実習前後の試験結果を踏まえ、A～Fの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	臨床実習Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	小泉雄一・他9名				
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の 方法	実習	単位数	1	単位	総時間数	45	時間
【授業を通じての到達目標】											
臨床（評価）実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案までの流れを把握する事が出来るようになる。											
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
作業療法士としての実務経験が3年以上の実習担当者が、実習中の取り組みについてフィードバック等を行う事を通して、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。担当教員：佐藤祐子・小泉雄一・田中直幸・中村勇貴・大和田みな未・大橋航祐・渡辺陵介・泉良太・濱畑法生・石井茉弥											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
臨床実習Ⅰ要項 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
<p>実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習前後におけるOSCE（客観的臨床能力試験）実施 ・実習要項・実習前後教育についての説明（実習に臨む姿勢や心構えの理解を含む） ・記録の取り方・観察・評価計画についての理解 ・評価のまとめから、プログラム立案に至る過程の理解 ・集団療法 ・リスク管理 ・精神科医療に関わる制度について ・症例検討・症例発表 ・リハビリ職（PT・ST）他職の理解 <p>以下の内容について、各実習施設における実習計画に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的能力の習得：社会人、医療・福祉の専門職としての適切な態度・習慣(情意領域) <p>社会性 コミュニケーション 挨拶 主体性 協働意識 自己研鑽 ルール（倫理観など）</p>											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとらむことが求められる。						実習指導者による評価や学校評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	臨床実習概論	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	小泉雄一・他9名				
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	1	単位	総時間数	45	時間
【授業を通じての到達目標】											
・3年間で行われる臨床実習について方法や手段を理解し、実習生として望まれる態度や知識について実際に行動して学習する。											
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
作業療法士としての実務経験が5年以上の教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえ、地域における作業療法について授業を展開する。担当教員：佐藤祐子・小泉雄一・田中直幸・中村勇貴・大和田みな未・大橋航祐・渡辺陵介・泉良太・濱畑法生・石井茉弥											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
臨床実習Ⅰ実習要項 各教科書						実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
授業計画											
臨床実習Ⅰ開始前に下記の内容にて実施する											
<ul style="list-style-type: none"> ・実習を行う実習分野（利用者理解含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解 ・リスク管理（ITリテラシー・感染管理）についての理解 ・手洗い・手袋・マスクの着用の仕方 ・実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解（個人情報保護法の理解を含む） ・「日誌」への記録内容及び記録方法に関する理解・見学実習、評価実習、総合実習の区分と目的について ・見学実習におけるの見学・観察について 											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心がまえが求められる。						授業前後の試験結果を踏まえ、A～Fの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	作業療法総合学習 I	必修選択の別	必修	開講区分	通年(前期)	担当教員	中村 勇貴
学科コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	1 単位 総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】							
解剖学・生理学の基礎の復習を行いながら、国家試験合格に向け1年生から基礎を固めていく。 問題を解き、グループワークでアウトプットを行い理解を深めていく。							
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)							
総合病院・回復期病院にて作業療法士として従事。主に身障領域・老年期領域にて現場で臨床現場を経験してきた教員が、本講義の通して、国家試験範囲基礎となる解剖・生理学の復習を中心に授業を実施していく。							
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】			
標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版 医学書院 標準理学療法学・作業療法学 生理学第5版 医学書院				授業の内で提示した課題			
回	授業計画			回	授業計画		
1	【授業単元】 オリエンテーション			9	【授業単元】 生理学② 循環について		
	【到達目標】 作業療法総合学習 I の目的について理解する				【到達目標】 循環について理解する 問題を解き理解を深める		
2	【授業単元】 解剖学① 骨について			10	【授業単元】 生理学② 呼吸について		
	【到達目標】 骨について理解する 問題を解き理解を深める				【到達目標】 呼吸について理解する 問題を解き理解を深める		
3	【授業単元】 解剖学② 骨について			11	【授業単元】 生理学③ 消化について		
	【到達目標】 骨について理解する 問題を解き理解を深める				【到達目標】 消化について理解する 問題を解き理解を深める		
4	【授業単元】 解剖学③ 骨について・筋肉について			12	【授業単元】 授業の総まとめ①		
	【到達目標】 骨・筋肉について理解する 問題を解き理解を深める				【到達目標】 今までの授業の復習を行い理解の定着を深める		
5	【授業単元】 解剖学④ 筋肉について			13	【授業単元】 授業の総まとめ②		
	【到達目標】 身体の構造や筋肉について理解する 問題を解き理解を深める				【到達目標】 今までの授業の復習を行い理解の定着を深める		
6	【授業単元】 解剖学⑤ 筋肉について			14	【授業単元】 定期テスト対策		
	【到達目標】 筋肉について理解する 問題を解き理解を深める				【到達目標】 今までの授業の復習を行い理解の定着を深める		
7	【授業単元】 まとめ 中テスト対策			15	【授業単元】 定期テスト 授業の振り返り		
	【到達目標】 骨・筋肉についてまとめを行い理解を深める				【到達目標】 小テスト、中テスト、定期テストの合計6割以上		
8	【授業単元】 中テスト 生理学①			【成績評価の方法と基準】			
	【到達目標】 骨・筋肉について中テスト 血液について問題を解き理解を深める			講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小点数以下切り上げ)を小テストの合計点とする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】							
国家試験に直結する科目です。受講時にはメモを取るなどしっかり理解していくことが重要です。予習・復習もやっていきましょう。							

授 業 概 要

科目名	作業療法総合学習 I	必修選択の別	必修	開講区分	通年(後期)	担当教員	中村 勇貴		
学科コース	作業療法士科屋間部	学年	1年	授業の方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
運動学・精神分野の基礎の復習を行い、国家試験合格に向け1年生から基礎を固めていく。 問題を解き、グループワークでアウトプットを行い知識の定着を図る。									
【学習内容】 (どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
総合病院・回復期病院にて作業療法士として従事。主に身障領域・老年期領域にて現場で臨床現場を経験してきた教員が、本講義の通して、国家試験範囲の運動学・精神分野を中心に授業を実施していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
配布資料					授業の内で提示した課題				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 前期の復習①				9	【授業単元】 精神① 精神疾患(統合失調症・気分障害)			
	【到達目標】 作業療法総合学習 I の目的について理解する 前期の復習を行い、知識の定着を図る					【到達目標】 精神疾患(統合失調症・気分障害)理解し知識の定着を図る			
2	【授業単元】 前期の復習②				10	【授業単元】 精神② 精神疾患(統合失調症・気分障害)			
	【到達目標】 前期の復習を行い、知識の定着を図る					【到達目標】 精神疾患(統合失調症・気分障害)理解し知識の定着を図る			
3	【授業単元】 運動学① 上肢の筋の作用				11	【授業単元】 精神③ 精神疾患(統合失調症・気分障害)			
	【到達目標】 上肢の筋の作用を理解し知識の定着を図る					【到達目標】 精神疾患(統合失調症・気分障害)理解し知識の定着を図る			
4	【授業単元】 運動学② 上肢の筋の作用				12	【授業単元】 精神④ その他の精神疾患について			
	【到達目標】 上肢の筋の作用を理解し知識の定着を図る					【到達目標】 精神疾患を理解し知識の定着を図る			
5	【授業単元】 運動学③ 下肢の筋の作用				13	【授業単元】 授業の総まとめ①			
	【到達目標】 下肢の筋の作用を理解し知識の定着を図る					【到達目標】 今までの授業を振り返り知識の定着を深める			
6	【授業単元】 運動学④ 下肢の筋の作用				14	【授業単元】 授業の総まとめ②			
	【到達目標】 下肢の筋の作用を理解し知識の定着を図る					【到達目標】 今までの授業を振り返り知識の定着を深める			
7	【授業単元】 運動学⑤ 関節運動について				15	【授業単元】 定期テスト 授業の振り返り			
	【到達目標】 関節運動を理解し知識の定着を図る					【到達目標】 小テスト、中テスト、定期テストの合計6割以上			
8	【授業単元】 中テスト 運動学振り返り				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 運動学のまとめを行い知識の定着を図る								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
国家試験に直結する科目です。受講時にはメモを取るなどしっかり理解していくことが重要です。予習・復習もやってみましょう。									

授 業 概 要

科目名	基礎医学特論Ⅱ	必修選択の別	必修	開講区分	通年(前期)	担当教員	中村 勇貴		
学科コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
内臓系～感覚器における範囲の作業療法国家試験過程(解剖・生理学)の要点8割以上を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
総合病院・回復期病院にて作業療法士として従事。主に身障領域・老年期領域にて現場で臨床現場を経験してきた教員が、本講義の通して、国家試験範囲基礎となる解剖・生理学の要点8割以上理解を目的に授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
Qシリーズ 新解剖学(第7版)、Qシリーズ 新生理学(第7版)					授業の内で提示した課題				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 2. 内臓系① 【到達目標】 内臓系(口腔、咽頭、食道、胃)について、その概要・要点を理解・説明できる。				9	【授業単元】 3. 脈管系③ 【到達目標】 脈管系(心臓・動脈・静脈)について、その概要・要点を理解・説明できる。			
2	【授業単元】 2. 内臓系② 【到達目標】 内臓系(小腸、大腸、肝臓、脾臓)について、その概要・要点を理解・説明できる。				10	【授業単元】 3. 脈管系④ 【到達目標】 脈管系(動脈・静脈・リンパ)について、その概要・要点を理解・説明できる。			
3	【授業単元】 2. 内臓系③ 【到達目標】 内臓系(気道、鼻腔、喉頭、気管)について、その概要・要点を理解・説明できる。				11	【授業単元】 3. 脈管系⑤(まとめ) 【到達目標】 今まで実施してきた脈管系の総まとめの理解・説明ができる。			
4	【授業単元】 2. 内臓系④ 【到達目標】 内臓系(肺・腎臓・膀胱)について、その概要・要点を理解・説明できる。				12	【授業単元】 5. 感覚系① 【到達目標】 感覚系(視覚)について、その概要・要点を理解・説明できる。			
5	【授業単元】 2. 内臓系⑤ 【到達目標】 内臓系(精巣・卵巣・尿道・性器)について、その概要・要点を理解・説明できる。				13	【授業単元】 5. 感覚系② 【到達目標】 感覚系(聴覚)について、その概要・要点を理解・説明できる。			
6	【授業単元】 2. 内臓系⑥(まとめ) 【到達目標】 今まで実施してきた内臓系の総まとめの理解・説明ができる。				14	【授業単元】 総まとめ 【到達目標】 今まで実施してきた感覚系の総まとめの概要・要点を理解・説明できる。			
7	【授業単元】 3. 脈管系① 【到達目標】 脈管系(心臓)について、その概要・要点を理解・説明できる。				15	【授業単元】 定期テストと授業の振り返り 【到達目標】 小テスト、中テスト、定期テストの合計6割以上			
8	【授業単元】 中テスト(内臓系) 3. 脈管系② 【到達目標】 脈管系(心臓・動脈)について、その概要・要点を理解・説明できる。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
国家試験に直結する科目です。受講時にはメモを取るなどしっかり理解していくことが重要です。予習・復習もやっていきましょう。									

授 業 概 要

科目名	基礎医学特論Ⅱ	必修選択の別	必修	開講区分	通年(後期)	担当教員	中村 勇貴			
学科コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30	時間
【授業を通じての到達目標】										
呼吸、循環、消化、吸収と代謝、内分泌の作業療法国家試験過程(解剖・生理学)の要点8割以上を理解する。										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
総合病院・回復期病院にて作業療法士として従事。主に身障領域・老年期領域にて現場で臨床現場を経験してきた教員が、本講義の通して、国家試験範囲基礎となる解剖・生理学の要点8割以上理解を目的に授業を行う。										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
Qシリーズ 新生理学(第7版)、Qシリーズ 新解剖学(第7版)、					授業の内で提示した課題					
回	授業計画				回	授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション 前期基礎医学特論Ⅱの復習・応用①				9	【授業単元】 11. 消化・吸収と代謝①				
	【到達目標】 前期基礎医学特論Ⅱの要点を理解・説明できる。					【到達目標】 消化・吸収と代謝(機能)について、その概要・要点を理解・説明できる。				
2	【授業単元】 前期基礎医学特論Ⅱの復習・応用②				10	【授業単元】 11. 消化・吸収と代謝② 13. 内分泌				
	【到達目標】 前期基礎医学特論Ⅱの要点を理解・説明できる。					【到達目標】 消化・吸収と代謝(機能)について、その概要・要点を理解・説明できる。 内分泌(ホルモン)について、その概要・要点を理解・説明することができる。				
3	【授業単元】 前期基礎医学特論Ⅱの復習・応用③				11	【授業単元】 国家試験問題①				
	【到達目標】 前期基礎医学特論Ⅱの要点を理解・説明できる。					【到達目標】 国家試験問題を解き、知識の定着を図る。				
4	【授業単元】 8. 呼吸①				12	【授業単元】 国家試験問題②				
	【到達目標】 呼吸について、その概要・要点を理解・説明できる。					【到達目標】 国家試験問題を解き、知識の定着を図る。				
5	【授業単元】 8. 呼吸②				13	【授業単元】 国家試験問題③				
	【到達目標】 呼吸について、その概要・要点を理解・説明できる。					【到達目標】 国家試験問題を解き、知識の定着を図る。				
6	【授業単元】 9. 循環①				14	【授業単元】 国家試験問題④				
	【到達目標】 循環(心臓)について、その概要・要点を理解・説明できる。					【到達目標】 国家試験問題を解き、知識の定着を図る。				
7	【授業単元】 9. 循環②				15	【授業単元】 定期テストと授業の振り返り				
	【到達目標】 循環(心臓)について、その概要・要点を理解・説明できる。					【到達目標】 小テスト、中テスト、定期テストの合計6割以上				
8	【授業単元】 中テスト(呼吸・循環) 10. 腎臓				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。					
	【到達目標】 腎臓について、その概要・要点を理解・説明できる。									
【履修に当たっての心構え・留意点】										
国家試験に直結する科目です。受講にはメモを取るなどしっかり理解していくことが重要です。予習・復習もやっつけていきましょう。										

授 業 概 要

科目名	小児科学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	今 えり		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
重症心身障害児や医療的ケア児が日々増加し、作業療法士もこれらの方々を担当する機会が増える中で、それらの現状を理解し、小児の疾患と障害の特性を学ぶ。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
作業療法士として、15年以上発達障害領域(児童デイサービスや特別支援学校・療育施設・園の巡回)で働きつつ、発達障害と小児疾患について勉強会を担当している教員が、小児の疾患と治療を中心に講義を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
小児科学・資料					予習(教科書を読む)・復習(資料を読み返す)				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 小児科学概論、 診断と治療の概論、新生児・未熟児と疾患				9	【授業単元】			
	【到達目標】 小児の身体、脳などの各臓器の発育について理解する。 診断と検査の過程を知り、治療や訓練に関わる情報をつかむ方法を理解する。 新生児、未熟児の代表的疾患を知る					【到達目標】			
2	【授業単元】 先天異常と遺伝病、神経・筋疾患 発達障害とその周辺疾患・二次障害				10	【授業単元】			
	【到達目標】 先天異常の発生要因を理解する。遺伝病と遺伝の法則を理解する 臨床の場で多い疾患の特徴を理解する 主な発達障害の特徴を理解する					【到達目標】			
3	【授業単元】 骨・関節疾患、循環器疾患 呼吸器疾患				11	【授業単元】			
	【到達目標】 小児の骨、関節疾患が示す症状の特徴を概む 心機能障害の臨床症状について知る 呼吸機能とその臨床症状について知る					【到達目標】			
4	【授業単元】 感染症、消化器疾患 内分泌・代謝疾患				12	【授業単元】			
	【到達目標】 感染症のそれぞれの特徴を知る 消化器系の症状の特徴について理解する 各種ホルモンの働きについて、生理学の知識を整理しながら各疾患の病態を理解する					【到達目標】			
5	【授業単元】 血液疾患、免疫・アレルギー疾患 腎・泌尿器系・生殖系疾患				13	【授業単元】			
	【到達目標】 各血球、血漿成分とその働き、および病的状態について知る 免疫機構と自己免疫疾患との関係を知る 腎機能検査の概略を知る					【到達目標】			
6	【授業単元】 腫瘍性疾患、心身医学的疾患 重症心身障害児				14	【授業単元】			
	【到達目標】 悪性腫瘍の治療や予後について理解を深める 身体疾患と心身疾患を知る 重症心身障害児の概念と背景疾患の主なものを知る					【到達目標】			
7	【授業単元】 眼科的疾患、耳鼻科的疾患 児童虐待				15	【授業単元】			
	【到達目標】 視機能の発達と異常を知る 聴覚障害および小児耳鼻科的の代表的な急性疾患を知る 児童虐待の分類と対応を知る					【到達目標】			
8	【授業単元】 定期試験、まとめ				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テストやレポートなどの提出物を40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 小児科学で学んだことを理解する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授業概要

科目名	整形外科学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	大橋航祐		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】 疾病や外傷に起因する運動器障害の疾病を理解するとともに、これらの疾病から派生する障害について説明できるようになる									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 教員は身体障害領域の急性期病院5年、回復期病院6年、また非常勤として週1回精神科病院、発達児童の放課後等デイサービスにて約2年経験。身体障害領域における作業療法プログラムについて講義または演習を通して学生が理解、実践でき、また国家試験に合格する為の知識を学ぶ。									
【使用教科書・教材・参考図書】 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第5版					【授業時間外における学習】 授業で学んだ内容を整理し、繰り返し学習を行い、知識を定着させましょう				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 4/7 (金)	【授業単元】 整形外科学に関わる解剖学の復習①				9 6/9 (金)	【授業単元】 整形外科学に関わる解剖学の復習③			
	【到達目標】 骨、関節、神経、筋などの解剖学について復習し、整形外科疾患理解に向けて知識を整理することができる。					【到達目標】 内臓器に関わる解剖学について復習し、整形外科疾患理解に向けて知識を整理することができる。			
2 4/14 (金)	【授業単元】 外傷性疾患 骨折について①				10 6/16 (金)	【授業単元】 循環器障害と壊死性疾患について			
	【到達目標】 骨折の分類と上肢骨折についての理解することができる					【到達目標】 代表疾患や特徴についての理解を深めることができる			
3 4/21 (金)	【授業単元】 外傷性疾患 骨折について②				11 6/23 (金)	【授業単元】 代謝・内分泌疾患・退行性疾患について			
	【到達目標】 上肢骨折・下肢骨折についての理解することができる					【到達目標】 代表疾患や特徴についての理解を深めることができる			
4 4/28 (金)	【授業単元】 外傷性疾患 末梢神経・腱・靭帯について				12 6/30 (金)	【授業単元】 炎症性疾患について			
	【到達目標】 末梢神経・腱・靭帯の障害について理解することができる					【到達目標】 代表疾患や特徴についての理解を深めることができる			
5 5/12 (金)	【授業単元】 神経・筋疾患について				13 7/7 (金)	【授業単元】 熱傷について 切断および離断について			
	【到達目標】 神経・筋疾患の病態や特徴について理解することができる					【到達目標】 熱傷や切断の理解を深める			
6 5/19 (金)	【授業単元】 整形外科学に関わる解剖学の復習②				14 7/14 (金)	【授業単元】 整形外科の評価および検査法 治療法とリハビリテーションについて			
	【到達目標】 脊椎を中心とした解剖学について復習し、整形外科疾患理解に向けて知識を整理することができる					【到達目標】 姿勢や歩行、運動器の評価についてと 整形外科治療の目的とリハビリテーションについて理解することができる			
7 5/26 (金)	【授業単元】 脊髄損傷・脊椎疾患について				15 7/21 (金)	【授業単元】 振り返りと定期試験および試験解答解説			
	【到達目標】 疾患と損傷レベルによる症状について理解することができる					【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 小テスト、中間試験、定期試験の合計が6割以上を達成できる。			
8 6/2 (金)	【授業単元】 振り返りと中間テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる 自身の理解度、習得度を把握することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】 整形外科学を通じて、解剖学や運動学などの知識とつなげ、臨床現場や国家試験で活かせる学びとしましょう									

授 業 概 要

科目名	神経内科	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	泉 良太		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】 神経内科(外科)疾患の内容を解剖生理学や作業療法専門科目と関連付けながら学び、理解することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 急性期・回復期病院にて主に脳卒中の作業療法に15年以上従事した教員が、作業療法対象疾患となる神経内科学全般を講義する。主に疾患を中心に講義を進め、疾患に応じて症候学や中枢神経系の基礎医学の内容を盛り込む。									
【使用教科書・教材・参考図書】 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第5版 (PT/OT国家試験必修ポイント基礎医学・臨床医学)					【授業時間外における学習】 復習。おすすめ教材「病気がみえる」脳・神経」(メジカルビュー)				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 脳血管障害①(P173-202)			9	【授業単元】 末梢神経障害(P275-283)				
	【到達目標】 脳血管障害の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。				【到達目標】 末梢神経障害の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。				
2	【授業単元】 脳血管障害②(P173-202)			10	【授業単元】 筋疾患(P288-300)				
	【到達目標】 脳血管障害の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。				【到達目標】 筋疾患の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。				
3	【授業単元】 外傷性脳損傷(P231-237) 脳腫瘍(P224-230)			11	【授業単元】 感染性疾患(P302-309)				
	【到達目標】 外傷性脳損傷、脳腫瘍の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。				【到達目標】 感染性疾患の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。				
4	【授業単元】 認知症(P204-222)			12	【授業単元】 中毒性疾患・栄養欠乏による神経疾患(P311-315)				
	【到達目標】 認知症の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。				【到達目標】 中毒性疾患・栄養欠乏による神経疾患の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。				
5	【授業単元】 変性脱髄疾患”髄体外路系を除く”、脱髄疾患(P253-261)			13	【授業単元】 小児神経疾患(P316-336)				
	【到達目標】 変性脱髄疾患”髄体外路系を除く”、脱髄疾患の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。				【到達目標】 小児神経疾患の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。				
6	【授業単元】 髄体外路の変性疾患(P262-283)			14	【授業単元】 神経疾患に多い合併症(P339-359)				
	【到達目標】 髄体外路の変性疾患の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。				【到達目標】 神経疾患に多い合併症の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。				
7	【授業単元】 てんかん(P284-286)			15	【授業単元】 総復習 定期試験				
	【到達目標】 てんかんの病態を基礎医学に基づいて理解することができる。				【到達目標】 定期試験の合格				
8	【授業単元】 脊髄疾患(P238-251)			【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。					
	【到達目標】 脊髄疾患の病態を基礎医学に基づいて理解することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】 授業の進行上、教科書の目次が前後する場合がある。 P5-169は他科目で履修済みあるいはこれから触れる内容なため、この授業ではクローズアップしない。各自、参考資料として使用することを願う。									

授 業 概 要

科目名	一般臨床医学	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	星野 裕亮		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	3 単位	総時間数	45 時間
【授業を通じての到達目標】									
各疾患の病因、病態生理、症候、診断、栄養管理と薬理、画像診断、障害予防について学ぶ									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学病院でかつ急性期医療の中で働く作業療法士が、臨床現場で必要となる臨床医学を経験談を交えて提供する。必要に応じてグループワークを行い、各疾患における様々な評価方法や作業療法への展開の仕方を学ぶ。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
授業資料 指定教科書					自主学習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1,2	【授業単元】 循環器疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ			16	【授業単元】 神経・運動器疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ		
	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ								
3,4	【授業単元】 呼吸器疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ			17	【授業単元】 アレルギー疾患・膠原病・免疫病	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ		
	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ								
5,6	【授業単元】 消化器疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ			18	【授業単元】 代謝・栄養障害	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ		
	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ								
7,8	【授業単元】 肝・胆・膵疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ			19	【授業単元】 感覚器疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ		
	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ								
9,10	【授業単元】 感染症	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ			20	【授業単元】 中毒・染色体・遺伝子異常症	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ		
	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ								
11,12	【授業単元】 血液・造血器疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ			21	【授業単元】 皮膚および胸壁の疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ		
	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ								
13,14	【授業単元】 内分泌疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ			22,23	【授業単元】 総復習、テスト	【到達目標】 これまでの講義の中で行った各疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防の確認		
	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ								
15	【授業単元】 腎・尿路・生殖器疾患	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ			【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(おおよそ半分の授業週で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 主な疾患の病因、病態生理、症候、診断 栄養管理と薬理、画像診断、障害予防を学ぶ								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
録画授業ですのでわからないことがあればteams上でいつでも質問してください									

授 業 概 要

科目名	臨床心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	小林 誠		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
心理的な対人援助の方法と実際について理解することで、医療・福祉の現場で人を心理的に支援する能力を身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
講師は、作業療法士として16年目となり、そのうち精神科病院での勤務は11年。私たち(対人援助職)が知っておくべき臨床心理学を分かりやすく、楽しく伝える。また、講師は国家試験対策にも精通しており、国家試験に合格できる知識を獲得することを目指す。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
リハビリテーションのための臨床心理学 牧瀬英幹著 南江堂 医療行動科学のためのカレント・トピックス 津田彰編集 北大路書店					授業内容の復習。 誰かに伝えるつもりで復習をしてみましょう。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 【到達目標】 この科目の進め方や、臨床心理学の全体像をつかむ。				9	【授業単元】 シリーズ<2>: 医療の行動科学⑤ 【到達目標】 社会の変化と家族の変容について、簡潔に説明できる。 その他の内容: 認知行動療法ステップ5 国家試験対策(後編)			
2	【授業単元】 シリーズ<1>: 対人関係について考えてみよう① 【到達目標】 対人関係について、簡潔に説明できる。 キーワード: セルフモニタリング、原因帰属、非言語的コミュニケーション など				10	【授業単元】 シリーズ<3>: さらに臨床心理学にせまる① 【到達目標】 ～心理アセスメントの方法と倫理～ 心理アセスメントの意義と方法、倫理について簡潔に説明できる。			
3	【授業単元】 シリーズ<1>: 対人関係について考えてみよう② 【到達目標】 対人関係について、簡潔に説明できる。 キーワード: 社会的ジレンマ、援助、集団 など				11	【授業単元】 シリーズ<3>: さらに臨床心理学にせまる② 【到達目標】 ～心理検査～ 心理検査の実施前後に考慮することや、心理検査の種類について簡潔に説明できる。			
4	【授業単元】 シリーズ<1>: 対人関係について考えてみよう③ 【到達目標】 対人関係について、簡潔に説明できる。 キーワード: リーダー、攻撃、流行、攻撃、犯罪心理 など				12	【授業単元】 シリーズ<3>: さらに臨床心理学にせまる③ 【到達目標】 ～無意識の欲望を探る精神分析/行動や認知の変容・制御を目指す～ 精神分析について簡潔に説明できる。 行動療法や認知行動療法について簡潔に説明できる。			
5	【授業単元】 シリーズ<2>: 医療の行動科学① 【到達目標】 障害受容、心理的安全性について、簡潔に説明できる。 その他の内容: 認知行動療法ステップ1				13	【授業単元】 シリーズ<3>: さらに臨床心理学にせまる④ 【到達目標】 ～人間の表現傾向を重視する/さまざまな心理療法的アプローチ～ クライアント中心療法について簡潔に説明できる。 家族療法、森田療法、交流分析について簡潔に説明できる。			
6	【授業単元】 シリーズ<2>: 医療の行動科学② 【到達目標】 医療者としての適性、防衛機制について、簡潔に説明できる。 その他の内容: 認知行動療法ステップ2				14	【授業単元】 シリーズ<3>: さらに臨床心理学にせまる⑤ 【到達目標】 ～発達と心の問題/認知機能のアセスメントと支援～ フロイト、エリクソン、ピアジェの理論について簡潔に説明できる。 記憶、注意、遂行機能について簡潔に説明できる。			
7	【授業単元】 シリーズ<2>: 医療の行動科学③ 【到達目標】 医療者の仕事とストレスについて、転移・逆転移について簡潔に説明できる。 その他の内容: 認知行動療法ステップ3				15	【授業単元】 定期テスト 【到達目標】 計15回の総合計得点:60点以上			
8	【授業単元】 シリーズ<2>: 医療の行動科学④ 【到達目標】 心理的アプローチによる医療事故防止について簡潔に説明できる。 その他の内容: 認知行動療法ステップ4、国家試験対策(前編)				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、A～Fの6段階で評価する。 100点の内訳は、 ①定期テストが60点満点。②小テスト(各回の合計)が40点満点。 ②の内訳は、 第1回授業 … 1点 第2～14回 … 3点 × 13回 = 39点 (以上 合計で40点) ①と②の合計で100点満点。				
【履修に当たっての心構え・留意点】					※本科目では、中テストは行わない。 ※定期テスト、小テストは資料持ち込み可。				
本科目は「心理学」をさらに専門的にした内容です。「臨床」や「対人」といったキーワードが、内容の柱となっています。難しい言葉がたくさん出てくるかもしれませんが、様々な専門家が築いてきた知識を手に入れることができます。どうか楽しんで下さい。									

授 業 概 要

科目名	チーム医療論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	細田 明		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業 形態	講義	総単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
作業療法士が、多様な生活と社会背景を持つ対象者に関与できる能力を身につけるために、必要たる複数の職種に関わり協働する多職種の役割について理解する。医療、自立支援、児童福祉、高齢者福祉等を包括する地域包括ケアシステムについてその要点を理解する。									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)									
老年期作業療法を中心に病院・クリニック・通所リハ・老人ホーム等実績の臨床18年目の当校夜間課程卒業生である教員が、臨床に於けるコミュニケーション及び多職種連携の価値や倫理を学び、対人援助職に大切な視点を学習する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
コミュニケーション論・多職種連携論／医歯薬出版株式会社 適宜書籍を紹介する					地域包括ケアシステム理解を深めてください https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 コミュニケーションの基本的な考え方				9	【授業単元】			
	【到達目標】 コミュニケーションの基本となる様々な側面について理解する					【到達目標】			
2	【授業単元】 コミュニケーションに必要とされる力 小テスト				10	【授業単元】			
	【到達目標】 意思決定の支援・傾聴力・説得する力・人間関係を発展させる力について理解する。					【到達目標】			
3	【授業単元】 コミュニケーションの手法 小テスト				11	【授業単元】			
	【到達目標】 質問・うなづき、あいづち・明確化・要約といった手法から対象者へのアプローチを学ぶ。					【到達目標】			
4	【授業単元】 多職種連携とチーム医療 小テスト				12	【授業単元】			
	【到達目標】 保険医療福祉に於いて、患者や支援対象者のニーズや思いに応えるため、その在り方を理解する。					【到達目標】			
5	【授業単元】 チームアプローチに於ける課題と対応 小テスト				13	【授業単元】			
	【到達目標】 多様性への対応・ファシリテーション・アサーション・コンフリクトマネジメントについて学ぶ。					【到達目標】			
6	【授業単元】 多職種連携の実践 小テスト				14	【授業単元】			
	【到達目標】 事例から多職種連携の実践を学ぶ。					【到達目標】			
7	【授業単元】 多職種連携の実践 小テスト				15	【授業単元】			
	【到達目標】 事例から多職種連携の実践を学ぶ。					【到達目標】			
8	【授業単元】 多職種連携の実践 テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、A～Fの6段階で評価する。 小テスト: 6コマ = 40点 テスト: = 60点				
	【到達目標】 事例から多職種連携の実践を学ぶ。								
【履修に当たっての心構え・留意点】					(計 100点満点)				

授 業 概 要

科目名	社会福祉論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	細田 明		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業 形態	講義	総単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
社会福祉の基本理念、その運動と歴史を学ぶことにより、多様な人々の生活と社会の力動性を理解した上で対象者に関与できる能力を身につける。社会保障論、障害者福祉論、社会福祉法制の基盤と社会福祉の機構について理解する。									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)									
老年期作業療法を中心に病院・クリニック・通所リハ・老人ホーム等実績の臨床18年目の当校夜間課程卒業生である教員が、臨床に於ける社会福祉の価値や倫理を学び、対人援助職に大切な視点を学習する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
コメディカルのための社会福祉概論／講談社 適宜書籍を紹介する									
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 社会福祉とは 日本の社会福祉の歴史 【到達目標】 社会福祉という用語は多義的な意味合いを含む言葉が多くなっている。また類似の用語も使用されているようになってきている。まずこれらの言葉を整理していく。我が国の、それぞれの時代に於ける社会福祉の背景や動向を理解する。				9	【授業単元】 【到達目標】			
2	【授業単元】 社会制度と社会制度を展開する組織・子供福祉 小テスト 【到達目標】 社会保障制度の体系・社会保険・公的扶助・社会福祉を展開する組織について理解する。子供を取り巻く社会状況、施策について理解する。				10	【授業単元】 【到達目標】			
3	【授業単元】 障害者福祉 小テスト 【到達目標】 障害者福祉の理念や基本的な考え方を学ぶ。				11	【授業単元】 【到達目標】			
4	【授業単元】 高齢者福祉 小テスト 【到達目標】 高齢者の現状と高齢者を支援する制度・政策を概観し、その在り方を理				12	【授業単元】 【到達目標】			
5	【授業単元】 介護保険制度と専門職の役割 小テスト 【到達目標】 介護保険制度について理解し、サービス提供を担う専門職について学ぶ				13	【授業単元】 【到達目標】			
6	【授業単元】 地域福祉とその推進方法 小テスト 【到達目標】 地域そのものを基盤とした新しい福祉の形態について理解する。				14	【授業単元】 【到達目標】			
7	【授業単元】 医療福祉 小テスト 【到達目標】 日本の社会保障制度の一つとして、医療保険制度が位置付けられている。この概要について理解する。				15	【授業単元】 【到達目標】			
8	【授業単元】 精神保健福祉 テスト 【到達目標】 精神障害者の定義と取り巻く状況・法制度について学ぶ。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、A～Fの6段階で評価する。 小テスト:6コマ = 40点 テスト: = 60点				
【履修に当たっての心構え・留意点】					(計 100点満点)				

授 業 概 要

科目名	職場関連技術論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	小泉雄一		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. 障害を持つ人々のリハビリテーションの重要なゴールの一つとして挙げられる「就労」における作業療法士としての役割を知り、その知識、技術を身につける									
2. 就労支援、障害者雇用など、現在の社会資源の状況を知り、その上で作業療法士として何ができるかを考える									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
教員は、精神科デイケアの経験も含めたOT31年目。精神科領域だけでなく、身障領域、発達領域、高齢者領域にも必要な職業リハビリテーション・就労支援等の知識を臨床経験に基づいて伝えていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
中村俊彦 他編:就労支援の作業療法。医歯薬出版社, 2022					・各回の復習をする				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 就労支援に関する総論①				9	【授業単元】			
	【到達目標】 基礎概念などを理解することができる					【到達目標】			
2	【授業単元】 就労支援に関する総論②				10	【授業単元】			
	【到達目標】 職業評価などを理解することができる					【到達目標】			
3	【授業単元】 身体障害領域での就労支援①				11	【授業単元】			
	【到達目標】 各疾患の概要・評価・作業療法介入の視点・具体的なプログラムなどを理解することができる					【到達目標】			
4	【授業単元】 身体障害領域での就労支援②				12	【授業単元】			
	【到達目標】 各疾患の概要・評価・作業療法介入の視点・具体的なプログラムなどを理解することができる					【到達目標】			
5	【授業単元】 精神障害領域での就労支援				13	【授業単元】			
	【到達目標】 各疾患の概要・評価・作業療法介入の視点・具体的なプログラムなどを理解することができる					【到達目標】			
6	【授業単元】 知的障害、発達障害領域での就労支援				14	【授業単元】			
	【到達目標】 各疾患の概要・評価・作業療法介入の視点・具体的なプログラムなどを理解することができる					【到達目標】			
7	【授業単元】 司法領域・地域での就労支援				15	【授業単元】			
	【到達目標】 司法領域・地域の概要・評価・作業療法介入の視点・具体的なプログラムなどを理解することができる					【到達目標】			
8	【授業単元】 まとめ・定期テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点(第1回は10点満点)とする。				
	【到達目標】 教科書(就労支援と作業療法)に書いてある内容をよく読んで、確認することができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・時間的に教科書全てを説明することはできないので、授業で触れなかったところもよく読んで、わからないところがあれば積極的に質問してください									

授 業 概 要

科目名	作業療法管理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	松本秀一		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
作業療法領域における社会保障制度、職業倫理、業務管理、多職種・地域連携、医療の質とリスクマネジメント、養成教育と卒後教育などを学び、組織の管理・運営について学習する。									
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
実務経験：急性期・回復期・在宅期を経験し、現在は回復期リハビリテーション病院で勤務。 授業内容：教科書をベースとし、実際の臨床をリンクさせ、作業療法士業務のマネジメントについて。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
使用教科書：作業療法管理学 入門（第2版） 参考教科書：同上					次回内容はシラバスを確認し教科書に目を通してください。小テスト・定期テストは教科書ないから出題します。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 作業療法とマネジメント 【到達目標】 マネジメントの特性、PDCAサイクルの考え方、作業療法士の目標設定について理解する				9	【授業単元】 作業療法の役割と職域 【到達目標】 作業療法の定義、職域を学び、職能団体の必要性を理解する。			
2	【授業単元】 組織の成り立ちとマネジメント 【到達目標】 作業療法士が属する組織について理解し、その中での役割について理解する。				10	【授業単元】 作業療法士の職業倫理 【到達目標】 作業療法における職業・研究倫理について学び、対象者への権利・尊厳を理解する。			
3	【授業単元】 情報のマネジメント 【到達目標】 情報の役割や種類を理解し、適切な使用が行える。				11	【授業単元】 作業療法士を取り巻く諸制度 【到達目標】 社会保障制度について学び、その特性や現状、課題を知る。また地域包括ケアシステムについて理解する。			
4	【授業単元】 作業と医療サービス 【到達目標】 サービスの特性を理解し、作業療法におけるサービス及び質の高い医療について理解する。				12	【授業単元】 作業療法臨床実習の理解と管理体制 【到達目標】 作業療法教育課程における臨床実習の位置づけを理解する。			
5	【授業単元】 医療安全のマネジメント 【到達目標】 医療機関におけるリスクマネジメント（医療事故・感染対策）について理解する。				13	【授業単元】 作業療法士のキャリア開発 【到達目標】 作業療法士が取得できる資格、学術研究について学ぶ。また生涯教育を行う上での自身のワークライフバランスを学習する。			
6	【授業単元】 作業療法業務のマネジメント①人・物・経済性のマネジメント 【到達目標】 人材育成・物品管理を学習し、リハビリ部門における経済特性を理解する。				14	【授業単元】 作業療法実践におけるマネジメント 【到達目標】 入院～退院、在宅生活までに作業療法士が携わる内容について学習し、その中でのどのようなマネジメントを行なっているか理解する。			
7	【授業単元】 作業療法業務のマネジメント②情報・時間・ストレスのマネジメント 【到達目標】 情報の特性を学び、時間・ストレスへのマネジメントについて理解する。				15	【授業単元】 定期試験 【到達目標】 作業療法領域におけるマネジメントについて知識の整理を行う。			
8	【授業単元】 作業療法業務のマネジメント③実践からの学び 【到達目標】 作業療法における業務管理・人材育成・地域・社会での役割について理解する。				【成績評価の方法と基準】 小テスト（14回×5点＝70点：40%） 定期テスト（1回×60点＝60点：60%） 両者の合計点により科目の評定（100%）とする。 テストは筆記テストを予定。（状況に応じて変更の可能性あり）				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
臨床の内容をベースとした授業となっています。臨床をイメージしながら取り組んで頂ければと考えています。									

授 業 概 要

科目名	作業療法評価学 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	大和田みな未		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<p>・作業療法評価総論について理解する。これまでに学んだ精神障害領域、高齢期領域の基礎知識を踏まえ、これら領域の基礎的な評価技法を習得する。またこれら領域の臨床において実際に評価をする総合的な能力を身につける。</p> <p>・評価の定義、評価の手順、情報収集と解釈について理解する。対象者の基本情報を基に評価計画を立てることができる。評価面接と観察と記録の基本的な技法を身につける。各領域のアセスメント法及び代表的疾患の評価事例について理解する。</p>									
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
精神科病院や地域包括ケア病院で働いてきた教員が作業療法の精神障害領域・老年期障害領域で使用する評価法に関する知識・演習の授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
能登真一 他編:作業療法評価学 第3版(標準作業療法学 専門分野). 医学書院, 2017					授業単元に応じた予習・復習。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	<p>【授業単元】 作業療法評価とは</p> <p>【到達目標】 評価の位置付け、評価の流れについて理解する</p>				9	<p>【授業単元】 高齢期障害について理解し、高齢者への評価を説明できるようになる</p> <p>【到達目標】 高齢期障害について理解し、評価項目や実施される評価を説明することができる。</p>			
2	<p>【授業単元】 精神機能作業療法における情報収集・観察法と面接法</p> <p>【到達目標】 評価項目や手段について理解することができる その中で、情報収集・観察・面接の実践方法を把握する</p>				10	<p>【授業単元】 高齢期の知的認知機能の評価</p> <p>【到達目標】 知的認知機能について理解することができる HDS-R・MMSEを実施する事ができる。</p>			
3	<p>【授業単元】 精神機能作業療法における検査法</p> <p>【到達目標】 検査の種類・方法について理解する</p>				11	<p>【授業単元】 高齢期への身体機能・認知機能の評価を実践できる</p> <p>【到達目標】 これまでに学んだ評価において、対象者を意識し、導入、リスク管理等を考えつつ実践することができる</p>			
4	<p>【授業単元】 集団における評価</p> <p>【到達目標】 集団に対する個人の特性について理解することができる</p>				12	<p>【授業単元】 認知症について</p> <p>【到達目標】 認知症の病態について理解できる 必要な評価について理解し説明できる</p>			
5	<p>【授業単元】 統合失調症の評価</p> <p>【到達目標】 統合失調症の基本的障害像と 作業療法評価のポイントを説明できる</p>				13	<p>【授業単元】 高齢者の自立度/物理的環境とその評価</p> <p>【到達目標】 高齢者を取り巻く生活環境を理解する</p>			
6	<p>【授業単元】 双極性障害の評価</p> <p>【到達目標】 抑うつ障害および双極性障害の基本的障害像と 作業療法評価のポイントを説明できる</p>				14	<p>【授業単元】 老年期の身体機能について</p> <p>【到達目標】 複合的な症状を併せ持つ高齢者に対する理解を深める。</p>			
7	<p>【授業単元】 依存症・パーソナリティ障害の評価</p> <p>【到達目標】 精神作用物質使用による精神および行動の障害、 パーソナリティ障害の特性について理解することができる</p>				15	<p>【授業単元】 後半まとめ テスト②</p> <p>【到達目標】 前期に行った授業の内容の振り返りを行い、テストを行う。 (9～14のまとめ)</p>			
8	<p>【授業単元】 前半まとめ・テスト①</p> <p>【到達目標】 1～7のまとめ</p>				<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>講義全体を100点満点とし、テスト①、テスト②の合計を60点、小テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。</p> <p>・試験は筆記試験で行う。</p> <p>・毎回の小テストは各回5点満点とし、その合計を40点へ圧縮した点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。</p>				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
今後の授業や実習に生かせるよう、知識を身に付けていきましょう。									

授 業 概 要

科目名	作業療法評価学Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講区分	前期	担当教員	大橋航祐・石井茉弥		
学科コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	60 時間
【授業を通じての到達目標】									
運動機能評価法で学んだ基礎知識をもとに、授業を通して基礎的技法を習得することが出来る。 作業療法評価の意義、目的や手段、手順、評価におけるリスク管理等について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
教員は身体障害領域の急性期病院・回復期病院、また非常勤として週1回精神科病院、放課後デイサービスにて作業療法士として従事。身体障害領域における作業療法評価について、講義または実技を通して知識や技術の獲得を図る。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準作業療法学【専門分野】 作業療法評価学 第3版 ベッドサイドの神経の診かた 新・徒手筋力検査法 第9版 リハビリテーションにおける評価法ハンドブック					各評価の目的については事前に予習しておき、質問・疑問については授業内で確認できるようにしておく。 手技・実技に関してはクラスメイトと反復練習を行ってください。				
回	授業計画				回	授業計画			
1 2	【授業単元】 作業療法の評価について、またその評価の目的・意義について理解する。 面接・観察法とバイタルサイン(血圧・脈拍・呼吸) 小テスト2.5点				17 18	【授業単元】 深部腱反射と姿勢反射に関する知識・技術を習得する。(打鍵器) 小テスト2.5点			
	【到達目標】 評価の意義について説明できるようになる。 バイタルサインを評価できるようになる。 評価内容からリスク管理を考えることができるようになる。					【到達目標】 深部腱反射と姿勢反射の概要・目的を説明できる。 深部腱反射と姿勢反射を実施できる。			
3 4	【授業単元】 形態測定と関節可動域測定に関する知識・技術を習得する。 (メジャーとゴニオメーター) 小テスト2.5点				19 20	【授業単元】 筋緊張検査と協調性検査に関する知識・技術を習得する。 小テスト5点			
	【到達目標】 形態測定と関節可動域測定の概要・目的を説明できる。 形態測定と関節可動域測定を実施できる。					【到達目標】 筋緊張検査と協調性検査の概要・目的を説明できる。 筋緊張検査と協調性検査を実施できる。			
5 6	【授業単元】 形態測定と関節可動域測定に関する知識・技術を習得する。 (メジャーとゴニオメーター) 小テスト2.5点				21 22	【授業単元】 脳神経検査と摂食嚥下機能検査に関する知識・技術を習得する。 小テスト5点			
	【到達目標】 形態測定と関節可動域測定の概要・目的を説明できる。 形態測定と関節可動域測定を実施できる。					【到達目標】 脳神経検査と摂食嚥下機能検査の概要・目的を説明できる。 脳神経検査と摂食嚥下機能検査を実施できる。			
7 8	【授業単元】 徒手筋力検査に関する知識・技術を習得する。 小テスト2.5点				23 24	【授業単元】 上肢機能評価に関する知識・技術を習得する。 小テスト5点			
	【到達目標】 徒手筋力検査の概要・目的を説明できる。 徒手筋力検査を実施できる。					【到達目標】 上肢機能評価の概要・目的を説明できる。 上肢機能評価を実施できる。			
9 10	【授業単元】 徒手筋力検査に関する知識・技術を習得する。 小テスト2.5点				25 26	【授業単元】 脳卒中の評価に関する知識・技術を習得する。 小テスト2.5点			
	【到達目標】 徒手筋力検査の概要・目的を説明できる。 徒手筋力検査を実施できる。					【到達目標】 脳卒中の評価の概要・目的を説明できる。 脳卒中の評価を実施できる。			
11 12	【授業単元】 感覚検査に関する知識・技術を習得する。 小テスト2.5点				27 28	【授業単元】 脳卒中の評価に関する知識・技術を習得する。 小テスト2.5点			
	【到達目標】 感覚検査の概要・目的を説明できる。 感覚検査を実施できる。					【到達目標】 脳卒中の評価の概要を説明できる。 脳卒中の評価を実施できる。			
13 14	【授業単元】 感覚検査に関する知識・技術を習得する。 小テスト2.5点				29 30	【授業単元】 授業の振り返りと定期テスト 定期テスト60点			
	【到達目標】 感覚検査の概要・目的を説明できる。 感覚検査を実施できる。					【到達目標】 小テスト、中テスト、定期テストの合計6割以上			
15 16	【授業単元】 前半の振り返りと中テスト 中テスト40点				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・定期試験は筆記試験と実技試験で行う。 ・毎回の小テスト及び中テストは筆記試験で実施する。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 基準点の到達								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
実習や国家試験のみならず、臨床現場でも行うことが多い評価方法です。授業時間のみで実習レベルの実技取得は困難です。各自自主練習時間の確保をお願いします。全身を使って覚えていきましょう。									

授 業 概 要

科目名	作業療法評価学Ⅲ	必修 選択の別	必修	開講区分	後期	担当教員	大橋航祐・石井茉弥		
学科コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
臨床実習を見据えた応用的な評価の考え方ができ、授業を通して基礎的技法を習得することができるようになる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
教員は身体障害領域の急性期病院・回復期病院、また非常勤として週1回精神科病院、放課後デイサービスにて作業療法士として従事。身体障害領域における作業療法評価について、講義または実技を通して知識や技術の獲得を図る。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準作業療法学【専門分野】 作業療法評価学 第3版 ベッドサイドの神経の診かた 新・徒手筋力検査法 第9版 リハビリテーションにおける評価法ハンドブック					実技練習はクラスメイトと自主練習を行ってください。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 前期評価学の振り返り 【到達目標】 測定実習を見据えて、前期で学んだ基本的検査法を実践できる。				9	【授業単元】 統合と解釈① 【到達目標】 症例検討を通して、統合と解釈を行うことができる。			
2	【授業単元】 作業療法評価の計画立案 記録、情報収集について知識を深める 【到達目標】 測定実習を見据えて、基礎的知識を準備する。				10	【授業単元】 統合と解釈② 【到達目標】 症例検討を通して、統合と解釈を行うことができる。			
3	【授業単元】 疾患別評価について① 【到達目標】 疾患別の評価計画を立案することができるようになる。				11	【授業単元】 問題点の抽出 【到達目標】 症例検討を通して、統合と解釈から問題点の抽出を行うことができる。			
4	【授業単元】 疾患別評価について② 【到達目標】 疾患別の評価計画を立案することができるようになる。				12	【授業単元】 目標設定 【到達目標】 症例検討を通して、統合と解釈から問題点の抽出を行い、リハビリ目標を立案することができる。			
5	【授業単元】 測定実習に向けて① 実技練習 【到達目標】 測定実習に向けて知識と技術の準備を行う。				13	【授業単元】 プログラム立案 【到達目標】 症例検討を通して、統合と解釈から問題点の抽出を行い、リハビリ目標を立てプログラムを立案することができる。			
6	【授業単元】 測定実習に向けて② 実技練習 【到達目標】 測定実習に向けて知識と技術の準備を行う。				14	【授業単元】 症例検討 【到達目標】 症例検討を通して、臨床思考過程に沿った作業療法を計画できる。			
7	【授業単元】 測定実習に向けて③ 実技練習 【到達目標】 測定実習に向けて知識と技術の準備を行う。				15	【授業単元】 授業の振り返りと定期テスト 【到達目標】 小テスト、定期テストの合計6割以上			
8	【授業単元】 測定実習の振り返り(まとめ) 治療評価① 【到達目標】 測定実習の振り返りを行うことができる。 評価実施を行い、治療に向けた計画を立てることができる。				【成績評価の方法と基準】				
講義全体を100点満点とし、定期テスト(レポート課題)を60点、小テストをレポート課題として合計40点分とする。									
【履修に当たっての心構え・留意点】									
測定実習・臨床実習に向けて非常に重要な科目になります。授業時間のみでの実技・思考の習得は困難です。各自自主練習・自己学習の時間を確保してください。									

授 業 概 要

科目名	身体障害治療学	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	大橋航祐		
学科 コース	作業療法士科屋間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
臨床実験に向け、身体障害領域の各疾患・障害別の作業療法の実践について標準予防策、リスク管理、コミュニケーション、上肢管理、下肢装具介助、車椅子の駆動介助、移乗介助、歩行介助、呼吸練習・排痰手技、構音障害、食事動作・摂食嚥下練習、更衣動作・入浴動作練習、IADL練習の基礎的技法を身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
教員は身体障害領域の急性期病院5年、回復期病院6年、また非常勤として週1回精神科病院、発達児童の放課後等デイサービスにて約2年経験。身体障害領域における作業療法プログラムについて講義または演習を通して学生が理解、実践でき、また国家試験に合格する為の知識を学ぶ。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第5版					授業の復習を行いましょう。1年次に学んだ解剖生理運動学などの基礎の上に成り立つ科目です。それらを踏まえ、暗記ではなく、理解を心がけましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1 4/7 (金)	【授業単元】 身体機能作業療法の対象疾患と障害、治療理論について				9 6/9 (金)	【授業単元】 感覚・知覚再教育について			
	【到達目標】 治療対象や作業療法実施のプロセス、治療理論について理解・説明できる					【到達目標】 感覚障害の背景とその治療について理解することができる。			
2 4/14 (金)	【授業単元】 対象者とセラピストのためのボディメカニクスについて				10 6/16 (金)	【授業単元】 廃用症候群とその対応について			
	【到達目標】 対象者とセラピストのためのボディメカニクスについて理解・説明できる					【到達目標】 廃用症候群とその対応について理解することができる			
3 4/21 (金)	【授業単元】 関節可動域の維持・拡大について				11 6/23 (金)	【授業単元】 摂食嚥下障害について			
	【到達目標】 関節可動域に関わる関節構造の復習から治療に至る知識を理解することができる					【到達目標】 摂食嚥下障害について理解することができる			
4 4/28 (金)	【授業単元】 筋力と筋持久力の維持・増強について				12 6/30 (金)	【授業単元】 喀痰吸引について			
	【到達目標】 筋力訓練に必要な知識とその理論について理解することができる					【到達目標】 喀痰吸引について理解することができる			
5 5/12 (金)	【授業単元】 筋緊張異常とその治療について				13 7/7 (金)	【授業単元】 脳血管疾患に対する治療①			
	【到達目標】 筋緊張異常の原因からその治療までを理解することができる					【到達目標】 脳血管疾患によって生じる障害とその治療について知り、理解することができる			
6 5/19 (金)	【授業単元】 不随意運動とその治療について				14 7/14 (金)	【授業単元】 脳血管疾患に対する治療②			
	【到達目標】 不随意運動の原因とその治療までを理解することができる					【到達目標】 脳血管疾患によって生じる障害とその治療について知り、理解することができる			
7 5/26 (金)	【授業単元】 協調運動障害とその治療について				15 7/21 (金)	【授業単元】 振り返りと定期試験および試験解答解説			
	【到達目標】 協調運動障害の原因とその治療までを理解することができる					【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 小テスト、中間試験、定期試験の合計が6割以上を達成できる。			
8 6/2 (金)	【授業単元】 前半の振り返りと中間試験および試験解答解説				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テストと中テストを40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる 自身の理解度、習得度を把握することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
実習に向けての必要な知識をしっかりと身につけていきましょう。									

授 業 概 要

科目名	身体障害治療学	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	二瓶太志		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
・臨床実習に向け、身体障害領域(主に脳卒中片麻痺)の作業療法の治療の実際について学び、体験、実践する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
作業療法士として19年の経験を持ち、ポバースコンセプトアドバンスコース修了、環境適応全コース修了、関節ファシリテーションアドバンスコース修了をはじめ、促通反復療法や筋膜リリース、電気治療など、様々な治療手技に精通し、今も臨床で患者治療やセラピスト指導に従事している教員が担当。主に脳卒中片麻痺に関する治療学のための基礎的な知識・技術を習得を目指す。脳卒中サバイバーの方にも協力して頂き、実際の臨床推論や治療展開を学び体験する機会も設けます。実技、グループワークも活用して授業を進めていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
身体機能作業療法学、ゴールドマスター 身体障害作業療法学、作業療法評価学					テキスト『身体機能作業療法学、ゴールドマスター 身体障害作業療法学、作業療法評価学』の自己学習、実技の復習				
回	授業計画				回	授業計画			
①	<p>【授業単元】</p> 9/21 脳卒中片麻痺に関する治療学概論 脳卒中ガイドライン2021を理解する 評価(FMA)、タッチ <p>【到達目標】</p> 脳卒中片麻痺の治療学を理解する 脳卒中ガイドラインを理解する 評価(FMA)を知り、実践する タッチの理解、実践				⑤	<p>【授業単元】</p> 11/16 Stage5～6の麻痺手に対する治療のポイント 関節可動域訓練、神経筋促通の実際 <p>【到達目標】</p> 軽度麻痺に対する治療を体験、理解する。 座位での、体幹、上肢の関節可動域訓練、神経筋の促通を体験、実践する			
②	<p>【授業単元】</p> 9/28 脳卒中患者に対する時期別のアプローチ 意味のある作業の選択と対話力 <p>【到達目標】</p> 脳卒中患者に対する時期別のアプローチを理解する 症例検討と演習を通して、意味のある作業の選択と対話力のスキルアップを図る				⑥	<p>【授業単元】</p> 11/23 関節可動域訓練、神経筋促通の実際 ACTIVITY <p>【到達目標】</p> ACTIVITYを用いた上肢治療を体験、実践する			
③	<p>【授業単元】</p> 11/2 脳卒中患者の日常生活における麻痺手の参加に向けて Stage1～2の麻痺手に対する治療のポイント 関節可動域訓練、神経筋促通の実際 <p>【到達目標】</p> 麻痺手の治療原則を理解する 重度麻痺に対する治療を体験、理解する 臥位での、体幹、下肢、上肢の関節可動域訓練、神経筋の促通を体験、実践する				⑦	<p>【授業単元】</p> 11/30 患者治療デモ <p>【到達目標】</p> 脳卒中患者治療の実際を見学し、参加し、学ぶ			
④	<p>【授業単元】</p> 11/9 Stage3～4の麻痺手に対する治療のポイント 関節可動域訓練、神経筋促通の実際 <p>【到達目標】</p> 中等度麻痺に対する治療を体験、理解する 側臥位、腹臥位での、体幹、上肢の関節可動域訓練、神経筋の促通を体験、実践する				⑧	<p>【授業単元】</p> 12/7 復習 筆記テスト <p>【到達目標】</p> 脳卒中片麻痺の治療学について理解、説明することが出来る			
【履修に当たっての心構え・留意点】					【成績評価の方法と基準】				
実技を実施するので、動きやすい服装で参加。授業前後、実技前後の手指衛生、マスク・ゴーグル着用し、感染対策を徹底しながら授業を進めていきます。感染状況等を鑑みて、可能であれば、実際の患者さんの協力を得て、治療デモを行います。					<p>【小テスト】</p> ①②③④⑤⑥⑦ 各回 5～6点満点 40点満点 <p>【中間テスト】なし</p> <p>【定期テスト】</p> ⑧ 60点満点 TEAMS上で実施				

授 業 概 要

科目名	老年期治療学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大和田 みな未		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	1年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
老年期障害領域における各障害に対する作業療法の実践を身に付ける事が出来るようになる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大学院にて研究・学会発表経験を持ち、精神障害領域、身体障害領域で約8年間臨床経験を積んだ教員が、作業療法実践に必要な知識・技能についてイメージを持ち、作業療法に対するモチベーションを高められるような授業を行っていきます。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
高齢期作業療法学 第3版 必要時に授業資料・スライドをteamsにアップします。					予習・復習を行い理解を深めましょう。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1・2	【授業単元】 作業とは 高齢社会、高齢期の課題、社会制度について					【授業単元】			
	【到達目標】 作業の意味について理解できる 高齢社会、高齢期の課題、社会制度について理解できる					【到達目標】			
3・4	【授業単元】 高齢期の作業療法について 高齢期の一般的特徴について					【授業単元】			
	【到達目標】 高齢期の作業療法について理解できる 高齢期の一般的特徴について理解できる					【到達目標】			
5・6	【授業単元】 高齢期に多い疾患について 認知症について					【授業単元】			
	【到達目標】 高齢期に多い疾患について理解できる 認知症について理解できる					【到達目標】			
7・8	【授業単元】 これまでの復習と中テスト 解説					【授業単元】			
	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。					【到達目標】			
9・10	【授業単元】 高齢期作業療法の実践過程について①					【授業単元】			
	【到達目標】 高齢期作業療法の実践過程について理解できる 病期に応じた治療・援助内容について理解できる					【到達目標】			
11・12	【授業単元】 高齢期作業療法の実践過程について②					【授業単元】			
	【到達目標】 高齢期作業療法の実践過程について理解できる 病期に応じた治療・援助内容について理解できる					【到達目標】			
13・14	【授業単元】 高齢期作業療法の実践過程について③					【授業単元】			
	【到達目標】 高齢期作業療法の実践過程について理解できる 病期に応じた治療・援助内容について理解できる					【到達目標】			
15	【授業単元】 これまでの復習と定期テスト 解説					【成績評価の方法と基準】			
	【到達目標】 これまでの学びについて復習し、アウトプットすることができる。 これまでの学びについて、どの程度習得できたかを知り、今後の学びに活かすことができる。					科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト・中テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 試験は筆記にて行う。 毎回授業の小テスト・中テストと定期テストの点数の合算にて評価を行うが、その数が整数でない場合は小数点以下は切上げとする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
将来作業療法士となり、対象者に対し治療を行うという自覚を持ち、作業療法への理解を深めていきましょう。									

授 業 概 要

科目名	精神障害治療学	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	小泉雄一		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害作業療法の観察を中心とした評価法を体験する。 ・精神障害作業療法の臨床実習に向け、評価やプログラムについて演習を通して学ぶ。 ・プログラムを立案して、実行しながらその様子も観察、評価し、評価と治療は一体であることを学ぶ。 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
<p>教員は、精神科デイケアの経験も含めたOT31年目。精神科領域だけでなく、身障領域、発達領域、高齢者領域にも必要な精神科の知識や評価から治療の流れを臨床経験に基づいて伝えていく。</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
長崎重信 監:精神障害作業療法学(作業療法学ゴールドマスターテキスト)改訂第3版. メジカルビュー社, 2021					授業単元に応じた予習・復習。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 治療学①				9	【授業単元】 知的障害			
	【到達目標】 治療構造、治療・援助の場について理解することができる					【到達目標】 事例を通して、疾患別作業療法の内容を理解することができる			
2	【授業単元】 治療学②				10	【授業単元】 自閉スペクトラム症			
	【到達目標】 治療構造、治療・援助の場について理解することができる					【到達目標】 事例を通して、疾患別作業療法の内容を理解することができる			
3	【授業単元】 統合失調症				11	【授業単元】 ADHD			
	【到達目標】 事例を通して、疾患別作業療法の内容を理解することができる					【到達目標】 事例を通して、疾患別作業療法の内容を理解することができる			
4	【授業単元】 うつ病				12	【授業単元】 てんかん			
	【到達目標】 事例を通して、疾患別作業療法の内容を理解することができる					【到達目標】 事例を通して、疾患別作業療法の内容を理解することができる			
5	【授業単元】 強迫性障害				13	【授業単元】 認知症			
	【到達目標】 事例を通して、疾患別作業療法の内容を理解することができる					【到達目標】 事例を通して、疾患別作業療法の内容を理解することができる			
6	【授業単元】 神経性無食欲症				14	【授業単元】 地域作業療法学			
	【到達目標】 事例を通して、疾患別作業療法の内容を理解することができる					【到達目標】 地域生活支援、就労支援、関連法規、制度について理解することができる			
7	【授業単元】 アルコール依存症				15	【授業単元】 まとめ・定期テスト			
	【到達目標】 事例を通して、疾患別作業療法の内容を理解することができる					【到達目標】 精神科領域の作業療法の評価から治療プログラムまで理解することができる			
8	【授業単元】 前半のまとめ・中テスト				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 前半のまとめとして、疾患別作業療法の内容を理解することができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
1年次の「精神障害」を復習しておく。									

授 業 概 要

科目名	精神障害治療学	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	小泉雄一		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害作業療法の観察を中心とした評価法を体験する。 ・精神障害作業療法の臨床実習に向け、評価やプログラムについて演習を通して学ぶ。 ・プログラムを立案して、実行しながらその様子も観察、評価し、評価と治療は一体であることを学ぶ。 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
教員は、精神科デイケアの経験も含めたOT31年目。精神科領域だけでなく、身障領域、発達領域、高齢者領域にも必要な精神科の知識や評価から治療の流れを臨床経験に基づいて伝えていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
長崎重信 監:精神障害作業療法学(作業療法学ゴールドマスターテキスト)改訂第3版。マジカルビュー社, 2021					授業単元に応じた予習・復習。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 評価の復習と演習:情報収集編①				9	【授業単元】 統合失調症の治療と演習①			
	【到達目標】 仮想の対象者の情報収集を実施することができる					【到達目標】 仮想の対象者の集団プログラム(SST)を立案することができる			
2	【授業単元】 評価の復習と演習:情報収集編②				10	【授業単元】 統合失調症の治療と演習①			
	【到達目標】 仮想の対象者の情報収集を実施することができる					【到達目標】 仮想の対象者の集団プログラム(SST)を実施することができる			
3	【授業単元】 評価の復習と演習:観察編①				11	【授業単元】 統合失調症の治療と演習②			
	【到達目標】 仮想の対象者の観察を実施することができる					【到達目標】 仮想の対象者の集団プログラム(レクリエーション)を立案することができる			
4	【授業単元】 評価の復習と演習:観察編②				12	【授業単元】 統合失調症の治療と演習②			
	【到達目標】 仮想の対象者の観察を実施することができる					【到達目標】 仮想の対象者の集団プログラム(レクリエーション)を実施することができる			
5	【授業単元】 評価の復習と演習:面接編①				13	【授業単元】 統合失調症の治療と演習③			
	【到達目標】 仮想の対象者の面接を実施することができる					【到達目標】 仮想の対象者の集団プログラム(音楽療法)を立案することができる			
6	【授業単元】 評価の復習と演習:面接編②				14	【授業単元】 統合失調症の治療と演習③			
	【到達目標】 仮想の対象者の面接を実施することができる					【到達目標】 仮想の対象者の集団プログラム(音楽療法)を実施することができる			
7	【授業単元】 前半のまとめ				15	【授業単元】 定期テスト:考察			
	【到達目標】 情報収集、観察、面接のポイントをおさらいする					【到達目標】 精神科領域の作業療法の評価から治療プログラムまで理解することができる			
8	【授業単元】 中テスト:ICF・統合と解釈				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
	【到達目標】 情報収集、観察、面接のポイントをおさらいする								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
机や椅子を移動して、実技ができるようにする									

授 業 概 要

科目名	発達障害治療学	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	小泉雄一		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害作業療法の評価と治療を学ぶ。 ・精神障害作業療法の臨床実習に向け、評価やプログラムについて演習を通して学ぶ。 ・プログラムを立案して、実行しながらその様子も観察、評価し、評価と治療は一体であることを学ぶ。 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
教員は、発達障害クリニックの経験も含めたOT31年目。発達障害領域の知識や評価から治療の流れを臨床経験に基づいて伝えていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
長崎重信 監:イラストでわかる発達障害の作業療法. 医歯薬出版, 2016					授業単元に応じた予習・復習。				
コマ	授業計画			コマ	授業計画				
1	【授業単元】 概論①	小児の作業療法課程、評価、治療・援助のための基礎知識、心身機能の発達過程を理解する			9	【授業単元】 知的障害・ダウン症・小児整形疾患①	知的障害、ダウン症、小児整形疾患の作業療法を理解する		
	【到達目標】					【到達目標】			
2	【授業単元】 概論②	小児の作業療法課程、評価、治療・援助のための基礎知識、心身機能の発達過程を理解する			10	【授業単元】 知的障害・ダウン症・小児整形疾患②	知的障害、ダウン症、小児整形疾患の作業療法を理解する		
	【到達目標】					【到達目標】			
3	【授業単元】 発達障害①	自閉スペクトラム症、ADHD、学習障害の作業療法を理解する			11	【授業単元】 支援制度・子育て支援①	支援制度、子育て支援について理解する		
	【到達目標】					【到達目標】			
4	【授業単元】 発達障害②	自閉スペクトラム症、ADHD、学習障害の作業療法を理解する			12	【授業単元】 支援制度・子育て支援②	支援制度、子育て支援について理解する		
	【到達目標】					【到達目標】			
5	【授業単元】 脳性麻痺・重症心身障害①	痙直型脳性麻痺、アトーゼ型脳性麻痺、重症心身障害の作業療法を理解する			13	【授業単元】 感覚統合療法①	感覚統合療法について理解する		
	【到達目標】					【到達目標】			
6	【授業単元】 脳性麻痺・重症心身障害②	痙直型脳性麻痺、アトーゼ型脳性麻痺、重症心身障害の作業療法を理解する			14	【授業単元】 感覚統合療法②	感覚統合療法について理解する		
	【到達目標】					【到達目標】			
7	【授業単元】 前半のまとめ	概論を踏まえて発達障害、脳性麻痺、重症心身障害の作業療法について理解する			15	【授業単元】 まとめ・定期テスト	概論を踏まえて発達障害領域の作業療法について理解する		
	【到達目標】					【到達目標】			
8	【授業単元】 中テスト	概論を踏まえて発達障害、脳性麻痺、重症心身障害の作業療法について理解する			【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】				科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
人間発達学を復習しておくこと									

授 業 概 要

科目名	義肢装具学		必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	岩本大志		
学科 コース	作業療法士科昼間部		学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】 義肢装具学について学び、臨床および国家試験でのポイントを理解出来るようにする。										
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 臨床面では、急性期・回復期病院に8年間勤務し、その後東京メディカルスポーツ専門学校にて専任講師を6年間担当。現在整形外科クリニックに勤務(臨床経験年17年目)。教育面では、東京メディカルスポーツ専門学校(担当:義肢装具学・評価学概論・地域リハビリテーションなど)に従事。臨床、教育両面の経験を活かし学生とのコミュニケーションを大切にし講義を展開していく。										
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】					
義肢装具学(医学書院)					授業内で提示した課題					
回	授業計画				回	授業計画				
1	【授業単元】 義肢装具学① 装具編 【到達目標】 装具総論 P24～38 その概要・要点を理解・説明できる。				2	【授業単元】 義肢装具学② 脳卒中 上肢編 小テスト①・② 【到達目標】 装具総論 脳卒中の病態を理解して、CRPS(複合性局所疼痛)について概要・要点を理解・説明できる。				
3	【授業単元】 義肢装具学③ 各論 脳卒中片麻痺 下肢編 P39～53 【到達目標】 装具総論 歩行メカニズムP7の範囲装具の力学的メカニズム(別紙)、P39の脳卒中の装具について概要・要点を理解・説明できる。				4	【授業単元】 義肢装具学④ 各論 上肢の装具 P54～P86 小テスト③・④ 【到達目標】 P.54～57について、その概要・要点を理解・説明できる。特に上肢についての装具について				
5	【授業単元】 義肢装具学⑥ 上肢補助具の作成 【到達目標】 実際に上肢補助具を作成する。 持参物に関しては後日お知らせします。				6	【授業単元】 義肢装具学⑥ 上肢補助具の作成 【到達目標】 実際に上肢補助具を作成する。 持参物に関しては後日お知らせします。				
7	【授業単元】 義肢装具学⑦ 装具の復習・国家試験問題の解答・解説 【到達目標】 授業①～⑥部分の復習と国家試験問題、その概要・要点を理解・説明できる。				8	【授業単元】 定期テスト 前半 30点 【到達目標】 授業1～6の小テストおよび国家試験問題を中心に出席				
9	【授業単元】 義肢装具学⑨ 義肢編 切断について 【到達目標】 切断総論P102～P112 その概要・要点を理解・説明できる。				10	【授業単元】 義肢装具学⑩ 切断のリハビリテーション 小テスト ⑨・⑩ 【到達目標】 P.113～124について、その概要・要点を理解・説明できる。				
11	【授業単元】 義肢装具学⑪ 義肢総論 【到達目標】 P126～P134 についてその概要・要点を理解・説明できる。				12	【授業単元】 義肢装具学⑫ 義足 小テスト⑪・⑫ 【到達目標】 P135～P170について、その概要・要点を理解・説明できる。				
13	【授業単元】 義肢装具学⑬ 義手 【到達目標】 P171～P186について、その概要・要点を理解・説明できる。				14	【授業単元】 義肢装具学⑭ 国家試験問題 小テスト⑬ 【到達目標】 福祉用具について、その概要・要点を理解・説明できる。				
15	【授業単元】 義肢装具学⑮ 定期テスト 30点 【到達目標】 小テストおよび国家試験問題を中心に出席				【成績評価の方法と基準】 評価方法:筆記試験 時期:小テスト(毎回)、定期テスト(11/1・12/6実施) 配点方法:定期試験60点、小テスト等40点の配点で総合し、AからFの6段階で評価する。試験は筆記試験で行う。					
【履修に当たっての心構え・留意点】 教科書など指示された持参物を忘れず持参すること。説明に対し、うなずく、メモを取る意識を持つこと。										

授 業 概 要

科目名	日常生活活動学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	二瓶太志	
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	4 単位	総時間数 60 時間
【授業を通じての到達目標】								
1. OTの視点から日常生活活動をとらえ理解し述べる事ができる 2. 日常生活動作の各活動について分析し特性を説明することができる 3. 生活関連動作や社会的活動について理解し具体的に述べる事ができる 4. 日常生活活動の定量評価について学び測定することができる 5. 疾患別におけるADLの特徴やアプローチについて説明できる 6. 各疾患の症例検討を通して、臨床的、実践的なADL支援の視点や具体的なアプローチを示せる								
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）								
作業療法士として3年間急性期、7年間回復期を経験し、その後リハビリテーション部の責任者として2度の回復期リハビリテーション病院の開設に関わり、20年目の今もなお、幅広く臨床現場で多くの患者治療やセラピスト指導に携わっている教員が、日常生活動作についての基礎的な知識・技術を習得する授業を行う。実際の症例を紹介しながら、日常生活の実際や回復過程に触れる機会を設けていく。感染管理を行いながら、可能な限り、実演や実技、グループワークも活用して授業を進めていく。								
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】			
ADLとその周辺、ADL (PT・OTビジュアルテキスト)、作業療法技術学3日常生活活動、PT・OT・STのための脳損傷後の回復期リハビリテーション					小テストに向けた復習			
回	授業計画				回	授業計画		
1 2	【授業単元】 1. オリエンテーション 2. ADLとは 3. 基本的ADLと広域ADL 4. ADLとQOL 5. ICFとADL 6. 日常生活活動における作業療法の理念と役割を理解する				17 18	【授業単元】 ①障害別のADLを理解する 脳卒中 Vol.2 食事、排泄、更衣 整容、入浴		
4/6	【到達目標】 ADL、IADL、QOLについて理解することが出来る。 OTの視点から日常生活活動をとらえ理解し述べる事ができる				6/8	【到達目標】 疾患別におけるADLの特徴やアプローチについて説明できる		
3 4	【授業単元】 1. 日常生活活動の評価と目的を理解する BI 2. 日常生活活動の評価と目的を理解する FIM				19 20	【授業単元】 ①障害別のADLを理解する 脳卒中 Vol.3 コミュニケーション、料理、掃除、洗濯、バス、電車、自動車、エスカレーター		
4/13	【到達目標】 日常生活活動の定量評価について学び測定することができる				6/15	【到達目標】 疾患別におけるADLの特徴やアプローチについて説明できる		
5 6	【授業単元】 1. 日常生活活動の評価と目的を理解する FIM 続き 2. 日常生活活動の評価と目的を理解する AMPS、COPM、QOIL 評価 3. ADLの支援について				21 22	【授業単元】 ①障害別のADLを理解する 脊髄損傷 vol.1 概要 損傷レベルと最終獲得機能 起居、移動、移乗、食事、排泄、更衣、整容、入浴、スイッチ操作等、住宅改修、自動車		
4/20	【到達目標】 日常生活活動の定量評価学び測定、そして支援することができる				6/22	【到達目標】 疾患別におけるADLの特徴やアプローチについて説明できる		
7 8	【授業単元】 1. 実際の脳卒中サバイバーのADLの経過を理解する 2. 環境適応・活動分析の視点を学び、体験する				23 24	【授業単元】 ①障害別のADLを理解する 脊髄損傷 vol.2 概要 損傷レベルと最終獲得機能 起居、移動、移乗、食事、排泄、更衣、整容、入浴、スイッチ操作等、住宅改修、自動車		
4/27	【到達目標】 実際の脳卒中症例のADLや経過をイメージすることができる。 環境適応・活動分析について理解することができる。				6/29	【到達目標】 疾患別におけるADLの特徴やアプローチについて説明できる		
9 10	【授業単元】 1. 起居、移乗、移動について理解し、介助が可能となる。 2. 食事動作、排泄動作の特徴と行為の構成要素を理解する				25 26	【授業単元】 ①障害別のADLを理解する 認知症 概要 各ADL 介入ポイント ②障害別のADLを理解する 下肢骨折・人工関節置換術 概要 各ADL 介入のポイント		
5/11	【到達目標】 上記活動について特性や行為の構成要素を理解することができる				7/6	【到達目標】 疾患別におけるADLの特徴やアプローチについて説明できる		
11 12	【授業単元】 1. 整容動作、更衣動作、入浴動作、コミュニケーション活動の特徴と行為の構成要素を理解する				27 28	【授業単元】 ①障害別のADLを理解する パーキンソン病 概要 各ADL 介入ポイント ②障害別のADLを理解する 神経筋疾患 概要 各ADL 介入ポイント		
5/18	【到達目標】 上記活動について特性や行為の構成要素を理解することができる				7/13	【到達目標】 疾患別におけるADLの特徴やアプローチについて説明できる		
13 14	【授業単元】 1. IADL活動(調理、掃除、洗濯等)の特徴と行為の構成要素を理解する 2. 復習				29 30	【授業単元】 復習 前期定期テスト		
5/25	【到達目標】 生活関連動作や社会的活動について理解し、上記活動について特性や行為の構成要素を理解することができる				7/20	【到達目標】 疾患別におけるADLの特徴やアプローチについて説明できる		
15 16	【授業単元】 ①中テスト ②障害別のADLを理解する 脳卒中 Vol.1 概要 身体障害と高次脳機能障害 起居・移動・移乗				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験はTEAMS上にて行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(7回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。 *変更ある場合は適宜説明します。			
6/1	【到達目標】 疾患別におけるADLの特徴やアプローチについて説明できる							
【履修に当たっての心構え・留意点】								
適宜、実技を行うため、毎回動きやすい服装で受講してください。講師や仲間とのディスカッションを通して理解を深めていきますので、積極的な発言を期待しています。授業前後、実技前後の手指衛生、マスク・ゴーグル着用し、実技はベアを固定し、15分以内に行うなど、感染対策を徹底しながら授								

授 業 概 要

科目名	高次脳機能障害治療学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	中村 美歌		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	3 単位	総時間数	45 時間
【授業を通じての到達目標】									
高次脳機能障害に対する作業療法を実践するための基礎的な能力を身につけることができる。基本的な高次脳機能障害を理解し説明ができる。高次脳機能障害に対応する代表的な検査を体験し、特徴を述べるができる。高次脳機能障害とADLの繋がりを理解し、障害像をイメージできる。高次脳機能障害の基本的な作業療法介入について理解し、プログラムの立案ができる。									
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
身体障害領域の回復期リハビリテーション病院にて18年の臨床経験があります。また、大学院での研究や学会発表経験をしてきました。高次脳機能障害における作業療法について実践例も交えながら授業を行います。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
高次脳機能障害学 第3版 医歯薬出版株式会社					授業単元に応じた予習・復習をして下さい。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 高次脳機能障害総論 画像診断のポイント				9 - 10	【授業単元】 無視症候群・外界と身体の間に関わる空間性障害①			
	【到達目標】 高次脳機能障害の概要理解することができる 画像診断のポイントを押さえることができる					【到達目標】 定義と症状、検査、評価、治療について理解することができる			
2	【授業単元】 失語、失読、失算				11 - 12	【授業単元】 無視症候群・外界と身体の間に関わる空間性障害②			
	【到達目標】 定義と症状、検査、評価、治療について理解することができる					【到達目標】 定義と症状、検査、評価、治療について理解することができる			
3	【授業単元】 失行と関連症状、行為、動作、行動の障害①				12 - 13	【授業単元】 注意・記憶・遂行機能とその障害①			
	【到達目標】 定義と症状、検査、評価、治療について理解することができる					【到達目標】 定義と症状、検査、評価、治療について理解することができる			
4	【授業単元】 失行と関連症状、行為、動作、行動の障害②				14 - 15	【授業単元】 注意・記憶・遂行機能とその障害②			
	【到達目標】 定義と症状、検査、評価、治療について理解することができる					【到達目標】 定義と症状、検査、評価、治療について理解することができる			
5	【授業単元】 失行と関連症状、行為、動作、行動の障害③				16 - 17	【授業単元】 認知症、せん妄、外傷性脳損傷による高次脳機能障害①			
	【到達目標】 定義と症状、検査、評価、治療について理解することができる					【到達目標】 定義と症状、検査、評価、治療について理解することができる			
6	【授業単元】 失認と関連症状①				18 - 19	【授業単元】 認知症、せん妄、外傷性脳損傷による高次脳機能障害②			
	【到達目標】 定義と症状、検査、評価、治療について理解することができる					【到達目標】 定義と症状、検査、評価、治療について理解することができる			
7	【授業単元】 失認と関連症状②					【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 定義と症状、検査、評価、治療について理解することができる					【到達目標】 後半の学びを振り返ることができる			
8	【授業単元】 中間テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小点数以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 前半の学びを振り返ることができる								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
多くの知識を身につけ、少しでも臨床の対象者を理解できるように学ぼうとする姿勢をもって臨んでください。									

授 業 概 要

科目名	測定実習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大和田みな未・他9名				
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	実習	単位数	3	単位	総時間数	135	時間
【授業を通じての到達目標】											
臨床Ⅰ（評価）実習の前に実際の対象者を通して、検査、測定 of 技術を身に付ける事が出来るようになる。											
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
作業療法士の実習担当者が、実習中の取り組みについてフィードバック等を行う事を通して、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。担当教員：大和田みな未・中村勇樹・大橋航祐・渡辺陵介・佐藤祐子・泉良太・小泉雄一・田中直幸・濱畑法生・石井茉弥											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
測定実習要項 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
以下の内容について、各実習施設における実習計画に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な臨床技能・技術習得目的とする ・ デリリーノート・レジュメ・実習ポートフォリオの作成 ・ 担当症例は持たず、様々な検査項目の実施を行う <p><必須></p> <ul style="list-style-type: none"> バイタルサイン（血圧・脈拍）測定 ROMテスト MMTテスト ブルンストロームステージテスト <p><状況に応じて実施></p> <ul style="list-style-type: none"> 感覚検査 高次脳機能検査 											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習指導者による評価や学校評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	臨床実習Ⅰ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大和田みな未・他9名				
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	2年	授業の 方法	実習	単位数	7	単位	総時間数	315	時間
【授業を通じての到達目標】											
臨床（評価）実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案までの流れを把握する事が出来るようになる。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
作業療法士としての実務経験が3年以上の実習担当者が、実習中の取り組みについてフィードバック等を行う事を通して、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。担当教員：佐藤祐子・小泉雄一・田中直幸・中村勇貴・大和田みな未・大橋航祐・渡辺陵介・泉良太・濱畑法生・石井栄弥											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
臨床実習Ⅰ要項 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
<p>実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習前後におけるOSCE（客観的臨床能力試験）実施 ・実習要項・実習前後教育についての説明（実習に臨む姿勢や心構えの理解を含む） ・記録の取り方・観察・評価計画についての理解 ・評価のまとめから、プログラム立案に至る過程の理解 ・集団療法 ・リスク管理 ・精神科医療に関わる制度について ・症例検討・症例発表 ・リハビリ職（PT・ST）他職の理解 <p>以下の内容について、各実習施設における実習計画に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的能力の習得：社会人、医療・福祉の専門職としての適切な態度・習慣(情意領域) <ul style="list-style-type: none"> 社会性 コミュニケーション 挨拶 主体性 協働意識 自己研鑽 ルール（倫理観など） ・専門的能力の習得：作業療法士としての知識、技術、思考(認知・精神運動領域) <ul style="list-style-type: none"> 基本的知識の習得 評価計画を立てる 評価の準備をする 評価実施 評価結果から全体像を把握する 評価結果の統合と解釈 作業療法計画立案 											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習指導者による評価や学校評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	基礎医学特論Ⅲ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(前期)	担当 教員	菅原匡宏(小林誠、大橋航祐)		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	3 単位	総時間数	90 時間
【授業を通じての到達目標】 作業療法士国家試験過程(解剖・生理学)の要点を8割以上理解する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 臨床面では、整形外科病院に8年間勤務し、現在訪問看護ステーションに勤務(臨床経験14年目)。教育面では、首都大学東京(担当:運動学実習)、医進学園(担当:PT/OT/鍼灸国試対策:オンライン講座担当)に従事。臨床、教育両面の経験を活かした講義を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
クエッションバンク					講義内で提示した課題				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 循環器系、消化器系 【到達目標】 「大動脈からの分岐、ウイリス動脈輪、静脈、リンパ系、心臓の構造、血液細胞、消化酵素、咀嚼、嚥下」について、その概要・要点を理解・説明できる。				9	【授業単元】 国家試験対策⑤ 【到達目標】 義肢装具学/スプリントについて、その概要・要点を理解・説明できる。			
2	【授業単元】 消化器系、呼吸器系 【到達目標】 「小腸・大腸・肝臓・膵臓の解剖・生理、膀胱(尿)、呼吸器系の構造、肺炎				10	【授業単元】 国家試験対策⑥ 【到達目標】 小脳疾患/脊髄小脳変性症について、その概要・要点を理解・説明でき			
3	【授業単元】 呼吸器系、代謝、内分泌系 【到達目標】 「呼吸中枢・呼吸生理、酸基平衡、基礎代謝、METS・RMR、ホルモンの種				11	【授業単元】 国家試験対策⑦ 【到達目標】 ROMについて、その概要・要点を理解・説明できる。			
4	【授業単元】 発生と組織 【到達目標】 「細胞の基本構造・発生形態・DNA、RNA、中枢神経系の構造、大脳皮質				12	【授業単元】 国家試験対策⑧ 【到達目標】 MMTについて、その概要・要点を理解・説明できる。			
5	【授業単元】 国家試験対策① 【到達目標】 骨関節系障害領域について、その概要・要点を理解・説明できる。				13	【授業単元】 国家試験対策⑨ 【到達目標】 介護保険制度について、その概要・要点を理解・説明できる。 IADLとICFについて、その概要・要点を理解・説明できる。			
6	【授業単元】 国家試験対策② 【到達目標】 中枢神経障害領域について、その概要・要点を理解・説明できる。				14	【授業単元】 国家試験対策⑩ 【到達目標】 障害者総合支援法について、その概要・要点を理解・説明できる。			
7	【授業単元】 国家試験対策③ 【到達目標】 内部障害領域について、その概要・要点を理解・説明できる。				15	【授業単元】 国家試験対策⑪ 【到達目標】 地域包括ケアシステムについて、その概要・要点を理解・説明できる。 定期試験で学習の習得度を理解できる。			
8	【授業単元】 国家試験対策④ 【到達目標】 住環境整備、車椅子について、その概要・要点を理解・説明できる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。試験は筆記試験で行う。 毎回の小テストは各回10点満点とする。最終的に40%へ換算して点数化する。 定期テストは10月15日の模試とする(前期後期合わせて実施)。 定期テストは模試の点数に準じてA~Fランクで評定をつける(基準点は別紙参照;2023年度国家試験対策のスライド資料)。Aは60点、Bは55点、Cは45点、Dは30点、Fは19点として定期試験の評定とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】 講師の発言に対し、可能な限りメモをとることを心がけること。									

授 業 概 要

科目名	基礎医学特論Ⅲ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年(後期)	担当 教員	菅原匡宏(小林誠、大橋航祐)		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】 作業療法士国家試験過程(解剖・生理学)の要点を8割以上理解する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 臨床面では、整形外科病院に8年間勤務し、現在訪問看護ステーションに勤務(臨床経験14年目)。教育面では、首都大学東京(担当:運動学実習)、医進学園(担当:PT/OT/鍼灸国試対策:オンライン講座担当)に従事。臨床、教育両面の経験を活かした講義を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】 クエッションバンク					【授業時間外における学習】 講義内で提示した課題				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 国家試験対策① 【到達目標】 創傷治癒、炎症、組織の病理変化、感染、腫瘍について、その概要・要点を理解・説明できる。				9	【授業単元】 国家試験対策⑨ 【到達目標】 肩関節の解剖・運動について、その概要・要点を理解・説明できる。			
2	【授業単元】 国家試験対策② 【到達目標】 病理所見、病因、循環器疾患について、その概要・要点を理解・説明できる。				10	【授業単元】 国家試験対策⑩ 【到達目標】 肘関節の解剖・運動について、その概要・要点を理解・説明できる。			
3	【授業単元】 国家試験対策③ 【到達目標】 代謝疾患・呼吸器疾患について、その概要・要点を理解・説明できる。				11	【授業単元】 国家試験対策⑪ 【到達目標】 手関節の解剖・運動について、その概要・要点を理解・説明できる。			
4	【授業単元】 国家試験対策④ 【到達目標】 消化器疾患、内分泌疾患、膠原病、自己免疫性疾患について、その概				12	【授業単元】 国家試験対策⑫ 【到達目標】 股関節の解剖・運動について、その概要・要点を理解・説明できる。			
5	【授業単元】 国家試験対策⑤ 【到達目標】 骨折、関節リウマチについて、その概要・要点を理解・説明できる。				13	【授業単元】 国家試験対策⑬ 【到達目標】 膝関節の解剖・運動について、その概要・要点を理解・説明できる。			
6	【授業単元】 国家試験対策⑥ 【到達目標】 後縦靭帯骨化症、椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症について、その概要・				14	【授業単元】 国家試験対策⑭ 【到達目標】 足関節の解剖・運動について、その概要・要点を理解・説明できる。			
7	【授業単元】 国家試験対策⑦ 【到達目標】 変形性関節症について、その概要・要点を理解・説明できる。				15	【授業単元】 国家試験対策⑮ 【到達目標】 体幹の解剖・運動について、その概要・要点を理解・説明できる。「授業内			
8	【授業単元】 国家試験対策⑧ 【到達目標】 脊髄損傷について、その概要・要点を理解・説明できる。				【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。試験は筆記試験で行う。 毎回の小テストは各回10点満点とする。最終的に40%へ換算して点数化する。 定期テストは10月15日の模試とする(前期後期合わせて実施)。 定期テストは模試の点数に準じてA～Fランクで評定をつける(基準点は別紙参照;2023年度国家試験対策のスライド資料)。Aは60点、Bは55点、Cは45点、Dは30点、Fは19点として定期試験の評定とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】 講師の発言に対し、可能な限りメモをとることを心がけること。									

授 業 概 要

科目名	地域実習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大橋航祐・他9名		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	3年	授業の 方法	実習	単位数	2 単位	総時間数	90 時間
【授業を通じての到達目標】									
地域生活支援を実践する場(通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション等)で実習をすることにより、地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
作業療法士の実習指導者から実習中の取り組みについてフィードバック等の指導を受け、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。学内で実習前後教育を1単位(45時間)実施し、現場実習を1単位(45時間)とする。担当教員:大橋航祐・渡辺陵介・佐藤祐子・泉良太・大和田みな未・中村勇樹・小泉雄一・田中直幸・演畑法生・石井茉莉									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
配布資料、地域作業療法第3版(医学書院)					日誌の作成、調べ学習				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 (実習前教育) オリエンテーション、実習前セミナー				9	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。			
	【到達目標】 必要な知識を事前学習をし、実習に向けた準備が出来る。					【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける			
2	【授業単元】 (実習前教育) 実習前セミナー、実習前試験				10	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。			
	【到達目標】 実習前試験に合格し、実習へ向かう準備を完了できる。					【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける			
3	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。				11	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。			
	【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける					【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける			
4	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。				12	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。			
	【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける					【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける			
5	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。				13	【授業単元】 (実習後教育) オリエンテーション、実習後セミナー			
	【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける					【到達目標】 実習を振り返り、学習内容を整理することができる。			
6	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。				14	【授業単元】 (実習後教育) 実習後セミナー			
	【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける					【到達目標】 実習を振り返り、学習内容を整理することができる。			
7	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。				15	【授業単元】 (実習後教育) 実習後セミナー、実習後試験			
	【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける					【到達目標】 実習後試験に合格することができる。			
8	【授業単元】 (現場実習) 実習地にて見学・体験学習を行う。				【成績評価の方法と基準】 ①実習地で採点する「基本的能力評価(60点)」、②実習前後試験「OSCE(20点)」、③実習報告書(20点)、計100点で採点をする。 合格基準は学則上の成績判定基準に準ずる。				
	【到達目標】 地域生活における課題解決能力、支援技術を培い、地域作業療法を実践する能力を身につける								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
地域で生活する対象者、作業療法に興味を持ち取り組むことができる。									

授 業 概 要

科目名	臨床実習Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	大橋航祐・他9名				
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	3年	授業の 方法	実習	単位数	9	単位	総時間数	405	時間
【授業を通じての到達目標】											
臨床実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案→治療実施→再評価という流れを充分把握し作業療法を行う事が出来るようになる。											
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
作業療法士としての実務経験が3年以上の実習担当者が、実習中の取り組みについてフィードバック等を行う事を通して、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。担当教員：大橋航祐・渡辺陵介・佐藤祐子・泉良太・大和田みな未・中村勇樹・小泉雄一・田中直幸・濱畑法生・石井菜弥											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
臨床実習Ⅱ要項 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
以下の内容について、各実習施設における実習計画に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。											
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的能力の習得：社会人、医療・福祉の専門職としての適切な態度・習慣(情意領域) <ul style="list-style-type: none"> 社会性 コミュニケーション 挨拶 主体性 協働意識 自己研鑽 ルール（倫理観など） ・専門的能力の習得：作業療法士としての知識、技術、思考(認知・精神運動領域) <ul style="list-style-type: none"> 基本的知識の習得 作業療法計画に沿った評価計画、立案評価及び治療技術・技能 全体像の把握・考察・記録 再評価計画立案、再評価結果の統合と解釈 作業療法計画再立案 											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習指導者による評価や学校評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	臨床実習Ⅲ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大橋航祐・他9名				
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	3年	授業の 方法	実習	単位数	9	単位	総時間数	405	時間
【授業を通じての到達目標】											
臨床実習指導者のもとに、偏りなく各疾患・病期・年齢層の患者について、評価→問題点の抽出→治療目標設定→治療計画立案→治療実施→再評価という流れを充分把握し作業療法を行う事が出来るようになる。総合的に対象者像を把握できる。											
【学習内容】（どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
作業療法士としての実務経験が3年以上の実習担当者が、実習中の取り組みについてフィードバック等を行う事を通して、実践を通して学んだ知識や経験を通常授業で学んだ事と統合する。担当教員：大橋航祐・渡辺陵介・佐藤祐子・泉良太・大和田みな未・中村勇樹・小泉雄一・田中直幸・濱畑法生・石井茉弥											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
臨床実習Ⅲ要項 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
<p>以下の内容について、各実習施設における実習計画に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的能力の習得：社会人、医療・福祉の専門職としての適切な態度・習慣(情意領域) <ul style="list-style-type: none"> 社会性 コミュニケーション 挨拶 主体性 協働意識 自己研鑽 ルール（倫理観など） ・専門的能力の習得：作業療法士としての知識、技術、思考(認知・精神運動領域) <ul style="list-style-type: none"> 基本的知識の習得 作業療法計画に沿った評価計画、立案評価及び治療技術・技能 全体像の把握・考察・記録 再評価計画立案、再評価結果の統合と解釈 作業療法計画再立案 											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
作業療法士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとらむことが求められる。						実習指導者による評価や学校評価を換算し、A～Fの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	作業療法総合学習 I	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	小林誠		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
作業療法士国家試験(精神・心理領域)に合格できる知識を獲得する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
講師は、作業療法士として16年目となり、そのうち精神科病院での勤務は11年となる。 国家試験対策の指導歴は9年目。OT現役学生はもちろん、OT卒後生や他資格(理学療法士、精神保健福祉士など)の学生にも指導しており、これまでに数百人の国家試験合格に携わっている。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
クエスチョンバンク 2024 共通・専門 メディックメディア					過去問と向き合う。 授業資料を整理し、自分なりにまとめる。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 国試対策① 統合失調症 その1 【到達目標】 正答率80%				9	【授業単元】 国試対策⑨ 依存症 【到達目標】 正答率80%			
2	【授業単元】 国試対策② 統合失調症 その2 【到達目標】 正答率80%				10	【授業単元】 国試対策⑩ 心理学(心理療法など その1) 【到達目標】 正答率80%			
3	【授業単元】 国試対策③ 気分障害 その1 【到達目標】 正答率80%				11	【授業単元】 国試対策⑪ 心理学(心理療法など その2) 【到達目標】			
4	【授業単元】 国試対策④ 気分障害 その2 【到達目標】 正答率80%				12	【授業単元】 国試対策⑫ 心理学(心理検査など) 【到達目標】 正答率80%			
5	【授業単元】 国試対策⑤ 神経症群 その1 【到達目標】 正答率80%				13	【授業単元】 国試対策⑬ 心理学(その他) 【到達目標】 正答率80%			
6	【授業単元】 国試対策⑥ 神経症群 その2 【到達目標】 正答率80%				14	【授業単元】 国試対策⑭ 精神障害に関する法律や制度 【到達目標】 正答率80%			
7	【授業単元】 国試対策⑦ 摂食障害 【到達目標】 正答率80%				15	【授業単元】 国試対策⑮ 定期テスト 【到達目標】 正答率80%			
8	【授業単元】 国試対策⑧ パーソナリティ障害 【到達目標】 正答率80%				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、A~Fの6段階で評価する。 100点の内訳は、 国試対策① 出席点 5点 国試対策②~⑭ 小テスト 各回 5点 × 13回 = 65点 国試対策⑮ 定期テスト 30点満点 (以上で、合計100点 満点)				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
過去問は憶えるまで繰り返し解くこと。					※ 中テストは行わない。 ※ 小テストは前回の授業の内容で実施。 例) 国家試験対策①の内容 ⇒ 国家試験対策②の授業内で小テスト実施				

授 業 概 要

科目名	作業療法総合学習Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	菅原匡宏(小林誠、大橋航祐)		
学科 コース	作業療法士科昼間部	学年	3年	授業の 方法	演習	単位数	5 単位	総時間数	150 時間
【授業を通じての到達目標】 作業療法士国家試験過程の要点を8割以上理解する									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 臨床面では、整形外科病院に8年間勤務し、現在訪問看護ステーションに勤務(臨床経験14年目)。教育面では、首都大学東京(担当:運動学実習)、医進学園(担当:PT/OT/鍼灸国試対策:オンライン講座担当)に従事。臨床、教育両面の経験を活かした講義を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
クエッションバンク					講義内で提示した課題				
回	授業計画			回	授業計画				
1	【授業単元】 国家試験対策①			9	【授業単元】 国家試験対策⑨				
	【到達目標】 脳血管障害について、その概要・要点を理解・説明できる。				【到達目標】 画像診断について、その概要・要点を理解・説明できる。				
2	【授業単元】 国家試験対策②			10	【授業単元】 国家試験対策⑩				
	【到達目標】 高次脳機能障害について、その概要・要点を理解・説明できる。				【到達目標】 筋ジストロフィーについて、その概要・要点を理解・説明できる。				
3	【授業単元】 国家試験対策③			11	【授業単元】 国家試験対策⑪				
	【到達目標】 変性疾患について、その概要・要点を理解・説明できる。				【到達目標】 パーキンソン病について、その概要・要点を理解・説明できる。				
4	【授業単元】 国家試験対策④			12	【授業単元】 国家試験対策⑫				
	【到達目標】 嚥下障害について、その概要・要点を理解・説明できる。				【到達目標】 脊髄損傷について、その概要・要点を理解・説明できる。				
5	【授業単元】 国家試験対策⑤			13	【授業単元】 国家試験対策⑬				
	【到達目標】 正常圧水頭症について、その概要・要点を理解・説明できる。				【到達目標】 筋萎縮性側索硬化症について、その概要・要点を理解・説明できる。				
6	【授業単元】 国家試験対策⑥			14	【授業単元】 国家試験対策⑭				
	【到達目標】 筋萎縮性側索硬化症について、その概要・要点を理解・説明できる。				【到達目標】 評価表一覧について、その概要・要点を理解・説明できる。				
7	【授業単元】 国家試験対策⑦			15	【授業単元】 国家試験対策⑮				
	【到達目標】 多発性硬化症について、その概要・要点を理解・説明できる。				【到達目標】 小児科学について、その概要・要点を理解・説明できる。「授業内定期試				
8	【授業単元】 国家試験対策⑧			【成績評価の方法と基準】					
	【到達目標】 ギランバレー症候群について、その概要・要点を理解・説明できる。			科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。試験は筆記試験で行う。 毎回の小テストは各回10点満点とする。最終的に40%へ換算して点数化する。 定期テストは1月7日の模試とする。 定期テストは模試の点数に準じてA～Fランクで評定をつける(基準点は別紙参照;2023年度国家試験対策のスライド資料)。Aは60点、Bは55点、Cは45点、Dは30点、Fは19点として定期試験の評定とする。					
【履修に当たっての心構え・留意点】 講師の発言に対し、可能な限りメモをとることを心がけること。									